

鹿児島県史料集 (31)

本藩地理拾遺集上 (薩摩国)

控

鹿児島県史料集 (31)

本藩地理拾遺集上 (薩摩国)

刊 行 の こ と ば

この度、鹿児島県史料集『本藩地理拾遺集上』を第三十一集として刊行しました。

写本『本藩地理拾遺集』（本館所蔵）は、田尻種甫編になる三巻本で、「薩摩国」（上巻）、「大隅国」（中巻）、「諸縣国」（下巻）という藩領全体にわたる地誌ですが、本年度は「薩摩国」を上巻として刊行しました。

県史料集は、史料の保存を図るとともに、郷土研究の利用に役立てることを目的として刊行しております。昭和三十四年度以来、営々と刊行を続けることができましたことは、県史料刊行委員の方々の御協力によるものであります。

本書は、桐野利彦先生（元鹿児島女子短大教授）に編集・校訂・校閲をいただきました。ここに、桐野先生及び県史料刊行委員の方々に心から御礼を申し上げます。

平成三年十月

鹿児島県立図書館

児 島 正 憲

目次

薩摩国拾芥元抄・武備志・撒子馬拾三郎

百次	1
山田	1
薩摩郡	1
隈之城	1
平佐	2
中郷	3
東郷	3
樋脇	4
入來	5
日置郡	5
串木野	5
薩摩郡	5
高江	7
甕島郡	7
三甕島	7
下甕島	7
日置郡	8
日置	8
吉利	8
永吉	9

市來	9
伊集院	11
郡山	13
川邊郡	13
川邊	14
加世田	15
山田	17
鹿籠	18
坊泊	18
久志秋目	20
硫黄嶋	20
竹島	21
黒嶋	21
七嶋	21
額娃郡	22
額娃	22
揖宿郡	24
揖宿	24
今和泉	25
山川	25

蘭牟田	大村	山崎	宮之城	覇田	黒木	佐志	羽月	山野	大口	伊佐郡	吉田	鹿兒嶋	鹿兒嶋郡	谷山	谷山郡	伊作	田布施	阿多	阿多郡	知覧	喜入	給黎郡
.....																						
49	48	48	47	45	45	45	44	44	42		41	35		34		30	28	27		26	26	

水引	高城	高城郡	高尾野	野田	長島	阿久根	出水	出水郡
.....								
53	52		52	52	51	51	49	

本藩地理拾遺集

薩摩国 拾芥元抄・武備志・撒子馬 拾三郡

周廻壹百三拾里式拾六町拾六間三尺

高三拾壹万五千五百六斗

一自薩摩国東至日向国諸縣郡都城飢肥領界路程拾九里餘、

一自府城西至薩摩国日置市來郷波海濱路程六里、

一自府城北至同国伊佐郡大口郷肥後国堺路程式拾六里、附自府城至日向国高鍋領界路程三拾里餘、至同領福島界路程式拾里餘、肥後国求摩領界路程拾八里餘、

一薩隅日之内、伊地知縫殿介季豐鋤初之城凡四拾ヶ所と自家系図二有、

一牛屎院入山者、嘉曆比入山彦五郎入道元古領之太秦姓也、能因法印歌枕薩摩国名所

ミなれ川は、こしま かさしの つかさの おふの里

薩摩国 文治ノ比頼枕三郎忠永之六男薩摩六郎忠直其子薩摩太郎忠友・同平次忠時・同平次郎忠国領之と家譜にみへたり、百次旧名入来院氏押領地也、旧記云永禄十三年正月上野、五日百次請取之、大将又七郎家久也、

一崇祭米壹斗七升五合 諏訪上下大明神 社司 本山伊与

一威徳山 圓満院 生松寺 真大乘院末

一宝昌山 善應寺 禪福昌寺末

一一百次城 天文八年己亥八月廿八日之夜、入来院石見守重朝依太守貴久公命、拔当城得勝利、去ル天文五年七月廿三日、受 太守勝久公命年々攻撃之、此月漸入手裏、

一永禄十二年己巳之冬 元龜元年 庚午ノ春共、 洪谷加賀守重嗣十二当郷を 義久公に奉獻、

薩摩郡 初川内山田ト云、川内ノ文字正徳四年午十月晦日干臺と改、

山田

一寛正三壬午三月廿四日、 太守立久公より洪谷彈正少弼重豐賜之^{九代ノ}家督、

一天正二甲戌ノ秋、有洪谷彈正少弼重豐^{十三代}狭野心之風聞、於茲重豐大驚懼獻靈社之神文、依訴無逆意時献当地、^{所カ}同

永利城 麓小路より北ノ方壹町計ニ在、

島津山城守忠朝守之、有不儀之振舞、依之市來備前守家親洪谷彈正同意ニ而攻之、應永廿五年十二月大石之平ニ陳、

翌年正月十一日進而山田に陣し及合戦、寄手失利、其後太守に乞援兵、依佐多讃岐守久信為大将、應永廿六年八月廿

九日被遣兵、然共無利、故 久豊公御出馬以大軍被攻之、

後詰勢院、肥州求摩、日州真幸、直に此儀を入来院彈正忠へ觸、

是より彈正忠抽軍忠、

一久木原権現 庄司 本山氏

一高式石五斗 陽春院 萬福寺 真大乘院末

一醫王山 東光寺 禪福昌寺末

一高牧 應永二年之冬、 元久公於当所勢揃被遊候而、此所ニ決陣營越玉フ年、

一志縄 大明神 三代実録云、貞觀二年三月廿一日、從五位下^{尾カ}志奈毛神亦授從五位下志奈毛、訓近し此社を云、本田親盈云

志那尾大明神、古云志奈毛神、所祭熊野本宮、

薩摩郡 旧記云、永録十三年正月五日、隈之城御受取大将又七郎家久也ト云々、

御假屋在向田 隈之城 一洪谷石見守平重朝領之、彈正少弼平重豐代為御領地、上古薩摩太郎忠友守之歟、建久九年鎌倉御觸狀薩摩太郎と有ル、平佐ニ而可有之哉、

一永禄十二己巳之冬、洪谷加賀守重嗣十二 献 義久公、是所以

慮、為國為家長久之謀也、又云元龜元年庚午春、地頭職賜又七郎家久、

一宮里城在宮里村貞治元年三月三日合戰有之、

天文八年己亥九月十日、受貴久公命、入来院石見守重朝攻取当地、

一隈之城 山城守忠朝守之、應永廿八年八月廿日、貴久公二後忠國將大軍攻之、忠朝降を乞獻城退出ス、此時落髮いたし号

道聖、

一諏訪大明神 祭米五斗式升五合

一觀現山 平嶺石寺 金剛院 真大乘院末、

一神感山 大源寺 禪市來龍雲寺末

一法昌山 福寿院 称名寺 時衆宗相州藤沢山末、家久公御石塔

昌本ノママ 法。御牌、師久公御牌有、

右称名寺曆應三年庚辰正月創立、開山陀阿上人遊行七世

一巢山山 龍樹院 来國寺 真大乘院末、

薩摩郡 上代是枝名ト云、

洪谷氏押平佐 一永禄十六年己巳之冬、洪谷加賀守重嗣平佐碓領ノ地也

山之両城を義久公ニ奉獻、○文禄四年より北郷作左衛門三久賜一所在地、

碓山城 在天辰村

曆應二年六月廿日、薩州南方凶徒鯨島彦次郎家藤・谷山

五郎入道隆信等押寄、此時權執印三郎次郎俊正有城而、

能拒之凶徒退散す、

○貞久公・師久公御在城、且伊久・守久御在城ニ而天明十七年二月一日、入来院又五郎攻取之候、

古城記云、曆應二年六月廿二日、薩州南方之御敵并洪谷黨攻之、合戰最中八幡新田宮山より瑞音二三度響入寄手陣中、其時味方之軍勢乘勝合戰を遂、凶徒敗北ト云々、○應安之比、山北四ヶ所両院及求摩、凶徒以大軍圍攻之、氏久公為後詰志布志より発し、薩摩山越て御陣取山遊諸軍を待給所ニ、市来某逆心ニ而通路を塞ク、依之 久氏公御難儀ニ及故和談被遊、市来氏依所望、市来某を聲に被成候、夫より味方之諸勢馳加故敵城を解引退ト云々、

平佐城 麓假屋通路筋より

四五丁計

應永十五年比志島孫太郎久範発兵

攻落当城候、可考、

○伊久二男山城守忠朝在城、應永十四年 應永十四年之比 依逆意、兵を遣し被攻落之候、

○天正十五年四月廿五日、秀吉公川内着船之砌、地頭桂神祇

忠防守之、依不降同廿八日辰刻、秀吉公命小西撰津守行長

脇坂中務・九鬼大隅守攻之、忠防以上三百人勢防禦稠敷又

入来院家より加勢ニ而城強、刺忠防切置而相戦、忠防家臣

神田橋安藝先懸ニ而、於藤崎小路大廻合、谷山紀伊守・同

次郎右衛門・春田主水・阿久根權之丞杯抽戦功、其後依

義久公命下城、泰平寺之陣ニ至ル、秀吉公忠防勇を感じ

宝刀壹腰云々、

○或記、天正十五年五月十八日、秀吉公太平寺を立、平佐

ニ入給ひ、夫より山崎之城ニ入り鶴田に御一宿、其後九尾

を経て曾木に越給ふ、此時兵粮乏敷難儀也云々、○又或記

云、六月十二日之夜、平佐之城ニ入給せ夫より鶴田様へ御

勸座とあり、

一稻荷大明神 社司野崎新五左衛門

一愛宕山 和合院 平等寺 真大乘院末

一長照山 梁月寺 禪都之城龍峯寺末

三国名Ⅱ徳

一高四拾五石

天辰村 天正二甲戌比、渋谷彈正少弼重豊代十三 与山田郷日当

村を、義久公に奉獻、

一白波大明神 在白波村古作白羽、所祭火雷神ノ命を祀乎、

三代実録云、貞觀二年三月廿一日從五位下白波火雷神又授從

五位上、白波白羽訓同シ、按、蓋鳥尊之惡行一かたならねハ、

天照太神忿給ひ天盤に幽居給へハ、八万万神会集す、様々の

丹精を抽被給候折、長白明神ハ麻を種々(春カ)幣を作られしとみ

へたり、此神ハ祭ル歟、又按、祀山城乙訓神社火雷神是乎、

平佐城責之事

天正十四年十一月ヨリ城普請有、普請奉
行北郷作左衛門・相良新右エ門・兵糧役人
鬼塚主税介・露三ノ丞也、

一天正十五年丁亥三月、秀吉公発撰州大坂、同四月廿五日、

川内泰平寺に着陣ニ而、同廿八日朝辰刻より被着平佐城、寄

手大將九鬼大隅守吉隆・脇坂中務少輔・小西撰津守行長也、

行長ハ城ノ北ノ岡ニ取陣遠卷ニ而、脇坂・小西両手を以責之、

城主桂神祇忠助以三百餘兵能拒之、故不得稻之也、合戦申ノ

下刻迄続也、入来院加勢之内高木和泉守・瀬々野善右衛門・

森掃部介・松元内膳正龍勸有、忠助家臣神田橋安藝於大手口

以弓戦、小切出羽守・牧参河土壘得其首、其後有和談、同廿

九日、為人質海老原方十郎・大内兵郎左衛門至脇坂陣、忠助

も又下城ニ而至泰平寺謁、秀吉公感忠助之勇賜宝寿之短刀者

也、此時能働者宇部和泉守・別府掃部兵衛・原田帯刀長久・

木崎民部左衛門・桑波田源八郎・開聞寺住僧猿渡長門守・相

原平左衛門・谷山刑部少・阿久根権之丞・山内淡路守・山口

又左衛門等也、此又左衛門打取吉田豊太脇坂一族、味方戦死ハ

松田主税介・藤田五左衛門・児玉休助・有馬物双也右京左衛門・村

原左衛門次郎・有馬権左衛門・森主税介・田中出雲守・同弥

七・高城讃岐守・松田助八郎・枚見筑後守・牧三河等也、

薩摩郡 天正二年ノ比、中郷地頭鳥丸紀伊守

祭米中郷寺寺升五合大明神 祭神一座建、御名方主命、社司坂元氏、

一高高松山 成就院 宅万寿 大乘院末 三国名Ⅱ林とあり

一太平山 安国寺 臨五山派廣濟寺末

一永禄十二年己巳之冬、依渋谷加賀守重嗣之陳、東郷大和守重

尚入道善僧降参而、当郷を 太守義久公ニ奉獻、奉謝多年之

罪、或記云、元龜元年春、地頭職を給義虎、

一太平山安国寺 伊集院廣濟寺末、曆應二年創建、開山淨妙通叟

和尚、当寺ハ將軍尊氏公御願ニ而、一国一ヶ寺御健立、薩州

之一寺ニ而候、

薩摩郡 延宝三年甲十二月廿三日より為一郷山地居村地頭、○

建久九年之比、東郷郡司時房とあり、

東郷○古昔より東郷氏領之、天正ノ中比迄東郷源七郎領之、

一天正十六年より嶋津図書頭忠長領之、慶長五年十二月去此地、

其後島津彈正久慶領、其子大膳久豫寛永十年より領、其子丹

波守久利万治二年より領之、延宝八年甲十二月より外城有、

一天文己来押領之地高城・水引・中郷・向田・西方等を 太守

獻之降参、依之此城を給、干時元龜元年之此也、

祭米壹斗五升

一誠訪上下大明神

一摩高五石山

一延寿院

一光明院

一湯光山

一松尾城

○寶治二年、奉將軍家之命、関東渋谷之支流柏原某下向、当

国召捕邪答院城頭職其兄弟五人也、長子早川太郎実重当院

為地頭牧氏領之、

一斧刈墨武車内又国見ヶ墨と云、此墨住昔斧刈氏内古と守之姓、

建久八年之比、在国司小太郎道氏・同東郷在国司三郎道嗣谷

ノ比・同在国司次郎入道道紹・同東郷藏人道義守之、此道義背

国命国一族之張本人也、郷内是宝治二年戊申、東郷渋谷太郎

実重渋谷庄司奉鎌倉將軍家命下田薩州為薩摩郡東郷領主、早

川權頭早川武藏賴重・同若狹守重親合戰、両家多郡邑ノ間

不決、重親不止自戰、其時・同次郎太郎武重・同次郎太

夫祐重・同薩摩守重信・同薩摩重明・同薩摩守重隆・同讃岐守

重信・同讃岐守重現・同左衛門次郎重信・同隠岐守重故・同

大和守重治・同大和守重繩領之而至永祿年間、

薩摩郡入来院家世々傳領之地也、天文年間以來押領之地百次、

而当地計を賜也、○延宝九年四月廿九日改清敷号樋脇、

樋脇旧名

一樋脇城

一清敷城

建御名方命

事代主命

三國名

て元久公御出陣、御本陣を野頸ニ被居候、本田信濃

(忠脱カ)守親号杉一揆陣備、水野播摩守守久・伊作大隅守久

義陣黒瀬木場原、新納実久号月一揆陣寿昌寺峯、其

外三國之將士不洩參陣困城、可守失防禦ノ術乞降没

落、当城実城之可再考、○同十八年、元久公再御出

馬被責城候比城追而、稻荷原浮橋樋脇川瀬野原松味

口皆陣城也、此御合戦ハ、公御在京路ニ而渋谷四ヶ

所ニ凶徒蜂起する故、公御下向有御追伐可被成由

ニ而御発向、鉾之尾に御陣也、

一鉾之尾○右合戦之節、元久公御陣場也、於当陣 公発疾病

御帰陣之後逝去有之候、應永十八年八月六日逝去ス、

一前田城可相考、應永三年正月十三日、元久公率軍被攻之、

(要カ)城落去ス、

一市比野城 同年同月十九日落去、(仍カ)各三城ニ味方之兵を被籠

候

右両城并樋脇之城落去之候、清敷城に被詰被成候、

神領墨石石寺、

一宮大明神祭米五斗 社司溝口氏、

一高龍山 蜜蔵院 瑠璃光寺 真一乘院末

一明宝山 玉刈寺 禅福昌寺末

一宝治二年戊申之春、應嚴親渋谷太郎光重之命、(管司五郎)定心

光重下着、当院住清(敷カ)

一延宝九改元年辛酉、改清敷之号称樋脇、是依訴入来院隼人重

治之訴之也、

一清敷城○應永四年丁丑四月下旬、島津上総介伊大從兵式千餘

太守光久公從兵五千余、頼久陣野頸、本田信濃守忠親満手野

ニ陳し、播摩守守久・伊作大隅守久義黑瀬木場之原に陳し、
新納越後守実久陣寿昌寺峯鎮相垣取切敵之通路、夜燒篝火振
兵勢功之城遂に陥ル、

薩摩郡産物自ウナキ、小海老○上古雖為樋脇之院、万治二年

入来但一湯也、此湯治諸病、大ニ在靈統、都鄙男女競望而浴焉、

○大宮大明神所祭一座大物主命、社人は枝敷馬

○金地山愛染院、松林寺、真乘院末

○龍游山寿昌寺、福昌寺末、開山通峯

○清色城在浦之各村、

○ミかむりの城在田村

旧記号測上城曆應年中於当城合戰在、勅諭神子禪師門弟下

○川床之城永禄十二年ノ比、入来院家臣

種田奎之助秀次守之、
開山文永之比乎

○副田村應永八年の比、入来院重頼家臣副田淡路守守之歟、

一万治二年己亥、賜入来院名見重頼(族カ)一所之地、其子隼人及志摩

介・又兵衛・又六左衛門或ハ主馬同續代々領之、

一上古入来三郎太夫藤原頼忠領之歟、長和年中、新田宮へ入来

院之内水田寄進之事旧記にみへ

日置郡 一浦三島平濱・串木野濱・羽島浦山、一冠嶽、

忠久公御代串木野三郎平忠通成持、薩摩六郎領之、

子孫四代之間守之、

串木野串木野、天正之比、嶋津中務太輔家久領之、
龜ヶ城と云、通路より東の方假屋之上ニ而ニ而候
一串木野城

○貞久公御代文和四年九月二日、官方大將三條侍從并市来太郎
左衛門・鮫島三郎次郎入道・知覺四郎・左藤三郎次郎入道已
下賊徒寄来当城之間、太守師久公御出馬五拾日合戦有之而
御勝利也、

一遠見番所 在羽島村

一同 在唐人ヶ尾

天文八年八月廿八日、城主川上上野介忠克島津八郎左衛門実
久力旗下を離、貴久公に奉属候、以茶原某之幼童為質下二

之旗下、

一冠嶽山真皇天乘院本高州九十九奈鎮国寺 頂峯院 往昔天台宗

右用明帝御宇曾我廐子皇子共草創、開山阿子(三國志ノ)仙人、

一土御門院御宇京師東寺(三國志ノ)輪院權僧正宗寿改天台宗為真言宗、

依而為中奥開山也、延徳二年、庚戌年、八月十一日寂す、

○阿弥陀如来唐人王仏

○御先祖忠久公四十御厄年 二付而 当寺之御安置有之候処、光久

公御代被召上、当分表御看経所へ御安置ニ而候、就夫新二木

像彫刻有之、当寺へ御安置、于今有之候、由緒書云、奉安置

無量寿仏尊等一軀、右奉為護持篤法心大施主忠久公御子孫永

保、国泰民安・怨敵退散・君臣和睦故也、

義久元己卯正月吉日 一御文書拾三通

一他家文書巻通

一諸旧記

右、頂峯院格護也、

東嶽 冠嶽之内 一東嶽祭祀九月十九日
熊野権現 熊野権現
○熊野権現宮中嶽 熊野権現 一南嶽右同九月九日

西嶽 熊野權現

一 右高戸皇子草剣、

一 窟不動明王 唐金仏行造立、古仏木像一鉢作者并年月不知

右、唐金仏ハ近代奥行院之云、山伏再興也、

但、窟ノ高サ下ヨリ四拾間計、一内深サ二十間位、

一 窟 虚空藏菩薩木像古仏窟内小堂有、

右、窟深十間位高サ下ヨリ四間位、梯子不動窟より壹丁計谷頭ニ有、

右、太守光久公御再興 窟内廣サ五敷四間位家作成程ニ有之

候、且又右窟之内ニ煙草毎年生ス

(三國名)蘇我煙草となり
買多葉粉といふ、

一 窟白山権現宮 大岩戸より東ニ在、

右、光久公御再興、

一 仙巖 頂峯院上ノ山也、上り式丁ほとあり、

右巖上に開山阿子丸仙人行法修行為有之と云傳、

一 硯石

右巖上ニ有、四季共ニ水不絶、硯石脇ニ在三尺廻り餘ノ石

④

一 放生山東之方谷越之巖也、

一 諏訪上下大明神 在上名村 神主入枝伊織、

祭神 薩州くしき野と云所ニ而、船待して日を祭礼、七月廿

八日帰る時、詠之諏訪大明神法樂義久公

夕すゝみ小山おろしにさそわれて

つなきし船の出るゝなとへ

傳称、右社ハ往昔奥州膽沢郡より當国へ勧請と云々、古棟札

無之、

一 諏訪大明神 上名村 一 諏訪大明神 在荒川村

右両社同人格護也、

一 諏訪大明神 在羽島村 神主梅北左膳

一 松尾大明神 在下名村之内寺嶋神主 入枝伊織

祭神大己貴命 祭祀九月廿八日

一 愛宕大権現 上名村 諏訪社中ニ鎮座

棟礼享保十年乙巳三月吉祥日、当地頭平田平太左衛門位充、

一 大房大明神 下名村 在 神主入枝伊織 祭神孝靈天皇 祭祀二月

六日、

一 猪之日大明神 神主同入、祭祀九月九日 祭米三斗五升 祭

神国狭槌命

一 妙見宮 在上名村 神主同入 祭祀十一月十三日 祭神仲哀天

皇、

一 羽島崎大明神 在羽島村 祭祀九月九日 祭神治国姫命 祭礼

九月九日

一 深田大明神 下名村 祭神天御主命

一 古城 上名村 龜ヶ城より東方五丁計ニ在、

一 濱ヶ城 下名村 海道西

一 陣之尾 荒川内 海道西海辺堀切跡有野岡也、

一 芹ヶ金山 (野晚カ) 旧蹟有、金山之穴数ヶ所あり、

一 岩水山 曹良福寺傳云、備中永_(三國名)寺末曹洞宗、越後国聖光寺末

峨山五哲之内実峯派開山月照永和尚、開基年月不知、貴久

公御牌立、誰様より御安置不知、

一 補陀山良福寺 一良福寺旧蹟大中公御石塔良福寺十二世梅月

和尚建立、

一羽島村薩摩平次郎忠朝四男忠重事、当村若松知行ト家譜見得たり、

一應永十年癸未十二月七日、島津播摩守忠久主より入来院彈正少弼重頼ニ賜也、其後永亨八年丙辰九月十四日、太守貴久公後堂より入来院出羽守重茂ニ^マ八当地六町任先例ニ領地之賜證狀、

(三國名)舊鹽店
一本壺や、慶長三年之冬、太守義弘公自朝鮮国御帰朝ノ節、

朝鮮人多人被召捕、此地ニ被召置、焼物細工被仰付、其内伸季伸外之四家郷士格ニ被仰付置候、左候而同八年之冬に、伊尻郷苗代川村(被召移候、何此所を本壺やと号ス、

一若松薩摩平次忠朝ニ男平九郎忠繼若松知行と家譜にあり、
一永禄十一年丁卯、串木野坂之下^カニ而渋谷衆五十三人打死、
但五月十九日己刻日記ニ有、

薩摩郡○渋谷氏押領之地也、永禄十二己巳之冬、渋谷加賀守

重嗣^{十二}世 太守義久公ニ奉獻、

高江 是所以慮、為国為国家長久之謀也、

永禄十三年正月五日獻之、大將島津又七郎家久之受取也、

一大永之比、忠治公より川田十郎左衛門義近領也^{八代}目、

一上古高江三郎太夫正貞領之^{太夫}正信孫子

一高江壘 松辻より南方三丁餘あり、

一猫嶽 松辻より三丁計、

○天正十五年、秀吉公御陣場ニ被成候、

(三國名)峯ヶ城
一峯城 文中元壬子六月廿三日自家系図ニ有

但 松嶺寺之上、麓松辻より西方三丁計

○永和之比、入来院彈正少弼重門率ニ^{五世也}入来院家大兵攻之戦死也、師久公被領之候、城兵失防禦術、山田式部太郎忠房・

守護代酒勾某一族其外軍兵戦死、異本ニ山田式部三郎太郎忠房為守護当城主領之也と有、戦死とハ不見得、且亦右合戦文和元年六月廿三日と有、

一遠見番所

一諏訪大明神 社司梅北式部 祭神一座建御名方主命

○村峯山 松嶺寺 真大乘院末 弥阿陀^(阿弥カ)長崎寺末、高徳石

甕島郡 浦一濱方浦下甕島 産物に麩・海鼠

三甕島 惣廻十四里五丁○往昔承子敷或古志岐、今為甕、

下甕島 惣廻十式リ廿二丁、拾三リ廿十丁、一遠見番所^{在上}甕島

古昔小川氏領之、建武四年八月比之旧記ニ、地頭小川小太郎武光とあり、○慶長十六年より寛永十六年迄移地頭本田伊賀、

小川大郎季能宇治川合戦依軍功知行ス、其子小太郎季直代下向当嶋云々、

一八幡新田宮 社司日笠山助之丞 祭神

一六王大明神 右同日笠山七兵衛

一講^元大明神 右同日笠山助之丞

一弁財天

右四社三甕島ニ有、

一八幡新田宮 社司日笠山和泉 一諏訪上下大明神^{(三國名)數}社司原崎

一天滿天神宮 社司原崎九左衛門 一數^{(三國名)數}大明神^{(三國名)數}社司日笠山和泉

右四社下甕島にあり、
高石六斗

一本福昌寺 御切米貳拾貳俵斗 真大乘院末

高石三斗(三國名、本福寺)

旭宝山 西昌寺 淨土宗不斷光院末 御切米貳拾貳俵

右二ヶ寺甕島にあり、
(切米カ)

御功主 貳拾貳俵斗

一大性寺大乘院末 一補陀山 常樂寺 禪市来金鐘寺末

日置郡○文治之比日置庄本地頭重澄其子有澄と旧記ニ見得たり、重澄ハ古伊作和田一流と見得たり、

○建長ノ比日置領主張純其子日置六郎太郎頼純

日置 弥太郎忠純日置弥動寺下司宗太郎真忠と旧記有、真

忠ハ貞久公御伐也、皆古伊作家和田カ一統見得候、

○自忠久公山田弥九郎ニ拝領之、

一古昔大江姓小野太郎家綱依右大將家命、薩摩国日置庄地頭職ニ被補、代々傳之、○應永之比伊集院久季領之、○勝久公御代山田弥九郎領之、

日置城○大永六年十一月五日、^{イセ}太守忠兼公嶋津下野守昌久御使として、○大永七年五月十一日、実久攻落之、○天文二

年十二月廿四日、城代山田式部少輔有親降忠良公之旗下、已後有親ニ賜城、但伊作於仏坂被誅、当城没落之後地上伊豆守松元三七等城を受取云々、

○八幡宮 社司原口氏 祭神三座

○上峰山 弥勒寺 安養院 高拾五石九斗 真大乘院末

○吉富寺 大乘寺 高五拾石 曹市来龍雲寺末

山田村 文治年間忠久公薩隅日三州の封を受、初而御下向之時、山田式部太輔有貴ニ謂而云、後日必可下向西国、有貴應

諾、其場実以堅畢、仍應貴命下薩摩国、賜日置之山田而領故

号山田もの也、又日賜日置而住山田故号山田矣、今考此時、

日置之内領地之土性宗雖多然者其孫有親之傳云、忠兼公被

進日置於忠良公、有親累代之領知と云々、是近世而不可継、

因之觀之後之説近是乎、但有貴ハ武蔵七郎左衛門有国カ男也、

有貴・国恒・国治・有備・有豊・有家・有庸・有尚・国淵・

有朝・有重・有俊・有親・有德迄拾五代之間領之、

一大永六年 太守忠兼公被進日置忠良公、山田式部少輔有親累

代之領地散有、日置之内雖然、不奉仕 公而經数年、天文二

年癸巳十二月二日、有親改前非猷所領一丁公奉謝罪、於薩殘

山田一所賜之移之、其後同月十四日有故、公召於有親伊作而

賜誅と云々、

一旧記云、永正六年乙巳六月、日置者たまり池に大亀浮出る事

数日あり、国悩乱と云々、

一延宝八年申八月三日、使嶋津丹波忠興旧領轉東郷、此地為一

所之邑、但東郷邑ハ其年依建一郷也、

一火在番所 飯牟礼嶽にあり、

日置郡

吉利

○御霊大明神 社司鶴田氏 祭神不詳

^{イ宝} 高式拾石九斗餘

○実資山 福寿寺 勝雄寺 真大乘院末

○清浄山 園林寺 禪越前興禪寺末 峨山五哲之内

一文祿四年乙未九月三日、轉禰寝 隅州 賜一所之地、根召安藝移

之、
(幻カ)

日置郡 旧記嶋津三郎左衛門尉実忠^{忠宗公}薩州南郷之地頭と

永吉 あり、旧記南郷、○天文元年改号永吉、

一建久之比、南郷南橋房覺弁^{紀氏桑波田阿闍利}領之、至子孫傳

領之、至桑波田孫六某代不領之、○大永六年十月廿六日、自

太守忠兼公平田次郎左衛門御使にて、日新公^江拜領、○天

文廿二年癸丑從貴久公上井武藏守董兼拜領之、其子覺兼代天

正年間去此地移日州宮崎也、

永吉城○桑波田孫六某^{景元}守之、大永六年十月廿六日より日新

公^御拜、依為御領地桑波田氏為旗下、天文二年二月十日、

孫六謀反、故^{屠力}同三月廿九日、日新公被攻桑波田河内守同式

部少輔已下屈殺せらる、而入掌握、其後貴久公御在城之處、

天文二年八月十四日、嶋津八郎左衛門尉実久以逆意襲責之、

雖然、日新公為後詰從田布施率拾餘騎御出馬有之、於城之野

頸及御一戰、御勝利ニ而數十人を被打取候、

異本云、太守并実久公南郷ニ免向之事聞而、五藤兵衛と云

もの注進之、依而宵より貴久公此墨ニ為籠と云々、

崇廟 一久多嶋大明神 社司山崎氏 祭神不詳

一高拾五石 一宮山 西定院 愛宝寺 真大乘院末

一慈門山 天昌寺 開山不屋和尚、上古号妙通寺、至徳二年開基、

一天正八年庚辰、上井伊勢守覺兼為日州宰移宮崎城時、替永吉

郷、於日州海江田城八拾丁賜之、

一地頭弟子丸越後守宗益入道紹閑、義久公御代、

一寛文十年、為嶋津安藝久雄^{味力}一末之地、

日置郡 古城記云、宝龜之比大藏卿中納言政房当国ニ下向、

(市来)市来為郡司、其子惟房市来院郡司、其子三郎太夫宗

宗房、其子十郎郡司、家房男子無之女子老人養女に

して某平氏の女也、嫁惟宗左衛門尉友成、生市来太

郎左衛門政家、仍政家嗣父友成之跡且受外祖母之讓

加領、市来院郡司職從是惟宗大藏の二姓を兼なり、

其孫時家なり、從夫子孫傳領之、三代太郎左衛門尉

時家背 太守貞久公、依曆應三年八月彼地ニ御出馬

之時家乞降下城ス、其子九代ノ孫美作守忠家にい

たり没落と云々、

○自家系図傳稱八文字民部大輔廣言晚年從忠久公下向于

薩州領市来院在城焉、但八代筑前守久家依背 太守忠

国公、被加御治野御手ニ入候、寛正三年壬午、

立久公退治之共異本ニ見得たり、此時の事歟、

一鍋ヶ城^{上古より市来氏} 一市来城^{建武四年九月十七日合戦ノ事旧記ニ有リ}

宝龜ノ比、市来郡司大藏政房守之、

道鑑公八代伊作田兵部承守之、○上京、

一伊作田城 在伊作田村 就宅間城没落之事、凶徒等馳集此城ニト

云々、文和三年四月十日、師久公注進状あり、元和元年八月

凶徒等楯籠、

一平之城 天文八年閏六月十七日、貴久公当地ニ御免向、即此

城御手に入御陣ニ被成、本城を被攻と云々、

建武四年七月廿七日城責あり、城主市来太郎左衛門入道道高

寄手の大將島津資久・嶋津資忠なり、

一本城○天文八年六月廿七日、太守貴久公被責之、入来院家

之加勢^{彈正少弼子と云、大日寺口ニ進て戦、城兵切て出味方}

敗軍ニ及、樺山安藝守善久・喜入撰津守忠俊等打死を争戦故、

終御勝利也、同八月廿九日守將島津越前守・新納常陸守乞降、九月朔日下城ス、貴久公此城ニ入給ひ勝吐氣あり、

一遠見番所 在弁才天嶽、○御假屋 在添村

一鳳凰山 遍昭院 大日寺 真言宗大乘院末、高卅五石

傳称当寺丹後局御造立、開山定増法印、正安元年建立、上古号光明寺、中称遍昭院、慶長年中改遍昭院号田日寺、慶長十七年壬子回祿矣、当寺ハ世道翁法即事、九州入[○]高麗陳御供ニ而候、

一本尊大日如来

丹後局御造立

左脇正観音大士

一阿弥陀堂 中尊阿弥陀如来 阿弥陀堂御懇防と唱、
(惣坊カ) 享保七子年己前、

右脇薬師如来

右丹後御局御持尊之阿弥陀云々、又云、丹後御局御背像を忠久公御建立ニ而崇阿弥陀如来号御惣坊と云々、

一当寺之堂地者承元三年ニ御建立之由、

一御仏餉米四石壹升、每朝於御供也、御供相調備仏前也、
本ノママ

一光明寺やしき旧蹟 在長里村有川門、

一遍照院旧蹟 当寺地より壹丁計東北ノ方ニあり、

一御腰掛之石

右丹後局御腰を掛らるゝよし申傳、

一長谷寺 上古羽勢寺と為申由、承元四年御建立と云々、

一法泉寺 在長里村 承久三年建立、

一濱嶽寺 在大里村 元文元年建立、

右三ヶ寺当分廢壞也、

ママ(谷カ) 一長長観音堂 大日寺格護

市来城を責られ候節、依御訴願大和国長谷之観音此地ニ御勸請之よし候、

一春日大明神 在長里村 承元三年[○]御建立

一薬師如来 在諏訪之原建立年月由緒等不相知候、

一若宮下之宮 在伊作田村

一稻荷大明神 社司有川氏 所祭三座
崇廟祭米五斗式升五合 高七拾七石

一法城山 龍雲寺 曹福昌寺末

天文元壬辰十二月廿一日夜分明曉龍雲寺炎上、
高八石

一万年山 金鐘寺 曹福昌寺末

能州總持寺末寺峨山五哲之内大源流、永和三年丁巳建立、開

山了堂和尚、 忠久公御母堂御寺、

一鎮守山○應永八年辛巳四月廿三日、 元久公師大軍当郷に押

寄構陣營此所、

一本城攻之時、搦手大将右馬頭忠将也、同八月四日伊集院大和

守忠朗唱凱頭、

一神ノ川 泊有、

一建武四年十一月廿日一見状案、嶋津大隅愛寿丸言上曰、薩摩

国之凶徒梶籠市来院城郭之間、今年九月廿九日合戦、愛寿丸

未条孫七尚元己下致軍忠ト云々、
ママ

市来大口寺鐘銘 但高麗鐘

鐘銘 (却カ)(壬カ) 祇園有金鐘、幼初輪直所造、音聲高妙判濟廣大焉、鳴鐘功名

其来尚矣、大日本国薩摩州市来院内山寺有、調鐘初高麗商人

載船而至於時、沙門定範沙弥道金并了園合戦買之、而以拾入

本寺即為之、銘云、

萬物有形 形必有聲 聲雖^{各異} 互待緣鳴

鳴而盛者 洪鐘禪靜 仏寺軌範 僧舍旗旌

一樓忍動 大^舞齊并 梵音落々 長谷勾々

没々三乘^{苦力} 浪々四生 無願不備 無道不成

或以拔告^{苦力} 或以止爭 歛者万福 闡者億榮

觀在薩陲 神通縱橫 諸天圍繞 聖乱^{神變}

皈宿星列 尊儀月明 乾也坤也 九五六二

元亨利貞 高掛寶閣 永鎮法城

明徳五年甲戌林鐘初日

大檀那前筑前守大藏忠家

住持比丘權律師定範謹銘
一法城山 曹洞宗福昌寺末寺 龍雲寺 高三拾七石

開山心巖良信和尚 寛正三年壬午創立、立久公并茂山妙

芳大姉忠昌公御母堂御牌石塔在、

一浦二湊町 江口浦 村八^{温湯此湯患諸瘡者浴連得驗}
都鄙男女群集而浴焉、

日置郡

伊集院

上古伊集院大夫紀盛成領之至數世之後、伊豫大掾清忠血脉依

断絶^{以上古}伊集院太守忠時公末子常陸介忠経孫伊集院弥五郎久兼古

伊集院家亡跡相續有而代々領之 七世孫大隅守瀧久宝徳二年^{一四}

庚午二月廿四日没落、而奔肥後州至爰不領之^{已上御家伊集院}
と世俗称之、

大永六年十二月十二日、日新公拜領地、同七年五月十一日、

嶋津八郎左衛門尉実久攻取之、町田中務久用二預之、○天文

五年三月七日、日新公・貴久公・右馬頭率三千餘兵、相共
に被攻取之、貴久公御責取^{家力}嶋、同十一月廿八日放火、土

橋勘解由左衛門以桑波田孫六左衛門・鮫島某兩人告降参之旨、

忠良公神殿石谷等入御手二候、天文十九年庚戌十二月迄御在

城也、

同廿九日有屋田某・関某・不筈某依注進神殿二発向、此夜

有孤火之瑞星落也、同十二月七日石谷伊賀守属来、

竹山城

天文六年丁酉正月七日、被攻落之、入来院某加勢責之、城主

肥後助内等之首を得、助清事与黨実久故被攻撃之防禦尽而放

お火城中自刎、因茲陷矣、

福山城
天文六年二月六日、敵棄当城而退去、聞此変実久之与黨在鹿府

及谷山之不能支、同七日引卒而川邊二去、

宇治城 在古城村

曆應三年八月乙巳築之、又云貞治四年己巳始築之、

平城

伊集院助三郎忠国己下凶徒等楯籠之故、曆應四年八月十五日

貞久公被攻之、同五年八月十六日二も被攻之、

土橋城 曆應四年度々被攻之、

○遠見番所有飯牟礼嶽、○御假屋苗代川、
祭米五斗式升五合

一諏訪大明神 社司小田原氏 祭二座^{建御名方主命}
高四拾三名

大勝山 聖御院 宝社巖寺^{幻也}
高三百七拾五石
法智山 妙圓寺 曹能州総持寺末、峨山五哲之内通幼派下^{石屋派}

明徳元年庚午、開山石屋和尚嘉慶元年共、大檀那嶋津大道、

高七拾五石 福壽山 梅岳寺 曹福昌寺末

高百石 千秋山 雪窓院 曹田布施常珠寺末

高七拾五石 芳真軒 妙圓寺塔頭、○久米山破鞋庵曹川迎宝福寺末、

高三拾石 廣濟寺 京都南禅寺末、薩隅日臨濟宗五山流門首

開山南仲和尚七男 伊集院忠国 ○実窓様 御位牌有、

瑞雲山 善福寺 廣濟寺末、○瑞雲山 報恩寺 右同

高七斗 竹林山 龍泉寺 時聚宗相州藤沢山末

高式拾九石九斗九升余 清沢山 普濟寺 来迎院 天台南泉院末(三國名勝・清泰山 普度寺)

西俣村 文禄二年癸巳自太守義久公顯姓氏八世弥三郎久音轉

本領賜此地、

一 太閤秀吉公西征之後、上井伊勢守寛兼去日州宮崎城、到薩州

當地補地頭職、天正十七年己丑六月十二日、於此地死、

一 壺也 在苗代川村、慶長八年之冬、串木野郷より被引移候、

茶挽其外磁器之類焼物細工いたす、

一 双六軒旧蹟 在德重村 始石屋和尚庵ニ而其後仲翁和尚住居、

於此寺迂化、

一 天正二年轉本院曾木菱刈半右衛門重廣當地神殿村を給移居此、

自重妙至重廣殆四百年來領菱刈南院之地、始而有交替也、

一 野田村 道鑑公御代伊集院野田淡路房兼領之歟、

妙圓寺鐘銘

推鐘一口

薩州牛屎院

若王寺権現

永徳二壬戌年九月廿八日

願主律師永超

一 鬘石 春山鹿倉内

大永七年丁亥六月十五日、貴久公被襲実久兵、伊作へ帰給ふ

おり、此所ニ而御供之内宇多氏 公之鬘を櫛と云々、

一 知迦尾六所権現 在嶽村 古云知迦尾神 祭神ニ座熊野本宮新宮兩所

権現 三代実禄云、貞觀二年三月廿五日從五位下加賀尾神授從

五位上、

一 法智山 曹洞宗能州總持寺末妙圓、

明徳元年庚午創立、開山石屋和尚 義弘公御牌御預御安置候、

一 芳真軒妙圓寺塔司 慶長十五年庚戌十月創立、開山昌庵繁和尚妙圓寺、実窓芳真

大姉家久公御牌御廟在、

一 福壽山 曹洞宗福昌寺末 梅岳寺 高七拾五石 開山三持舜有和尚、

開基年号不詳、 日新公 梅岳常潤御牌并寛庭芳有大姉日新公

御牌御石塔有、

一 千秋山 常珠寺末雪窓院、永禄十年丁卯十二年 貴久公御創

建、開山二珠桂林和尚、雪窓妙安大姉御牌所、義久

公・義弘公御母堂、

一 定山 廣濟寺 臨濟宗京都南泉院末、五山派

開山蒙山智明和尚 創一 日本号 開基年号不詳、二世南仲和尚開山

二而蒙仲ハ勸請ト云々、 真言宗大乘院末寺

一 大勝山聖御院宝莊嚴寺 宝永年中草創、開山一吽上人、○一吽者上野国之人ニ而善光

寺弥陀三尊を模取并弘法大師彫刻之不動負來而、良範上人ニ

附与す、依而良範此寺ニ安置すといへとも、右寺を大乘院ニ

被移候ニ付、本尊も大乘院江安置す、

一 久木山 破鞋庵 應永九年建立、開山寺堂覺和和尚、

泰陽山 直林寺 曹洞宗能州諸三山總持寺末寺峨山五哲之内通の派

至徳三年丙寅年開基、開山通幻和尚、石屋和尚從深固院又注

二而石屋より通幼を勧請ス、

一苗代川村市來養母村之内ニ而候を寛文五年比伊集院之内へ相成候と云々、

日置郡

郡山

上古郡山弥三郎良平 加治木六郎領之、恒平二男也

義久公御代平田美濃守光宗拜領之居住焉、

郡山城 鐵初者伊地知縫殿介季豐初之、自家系図ニ有

觀應之比凶徒攻落と云々、道鑑公比志嶋彦一丸ニ被遣候、

御伏ニ見得たり、

(三國名一之宮) 在東俣村、所祭三座忠久公・八文字民部太輔廣言・丹後局

一(之)宮大明神

奉崇忠久公御靈と云々、

爵花尾權現法号一宮大明神 鎮座年記不詳、

祭米三斗五升 杜司前田 祭神二座 建御名方主命

一諏訪上下大明神 祭米四石五斗 兼帶 平等王院 高式拾五石 例祭正月十

一花尾權現 兼帶 平等王院 高式拾五石 例祭正月十

三日 九月九日・二月十二日、

一高岩石 寺光院法幢寺真大乘院末、イニ市來龍雲寺末云々、

一真木山 圓照寺 曹市來龍雲寺末

一西光山 圓照寺 曹市來龍雲寺末

一馬越城 在川内村、古老傳云、村上賴重薩下、当国此城に居

一郡山城 住と云々、

天文六年丁酉三月十四日、 太守勝久公渋谷石見守重朝代十一

拜領之、其後重朝依有不忠之聞得被偏止故仕加之、同十四年

乙巳八月八日、当城被攻取候、

一信州山守護村山三郎左衛門尉重賢 志田三郎義憲 故有而下向薩

州住当院、其子滿家左衛門尉重賢 或上總入道法橋榮弁 律師又ハ作榮尊

然ルニ父賴重薩州住居之内、滿家院郡司大藏氏永平之嫡女嫁

榮尊誕生、其後賴重比信州帰国、此時榮尊召列為上京奉仕

禁裏也、永平無男子故、滿家院榮尊知行、此時從忠久公、滿

家院郡司左近通可隨下知旨之賜、寛永二年二月十一日、永武

藏守平経時也、權現社在西俣村、建武三年二月、上總介入道

榮尊建立也、

西俣村 西俣弥三郎 盛忠一本 茂助領之、榮尊二男也、

康安二年之比、氏久公より本田信濃守に賜之、

川田村 河田右衛門尉、一本二義尹或盛佐 領之、以在名同氏、

元久公御代川田左衛門太郎源資清守之 私云、此村当分

邊平木村 邊平木又五郎榮慶 一本榮隆、榮領之、

川田城 鐵初伊地知季忠之 勤と自家系図ニ有、可再考、

此城ハ 義久公御代川田駿河守義朗守之と云々、城内に礎

其外庭石等あり、深サ廿尋餘之井戸今に有、川田伊織國福

代被訴、 公為格護之古墨也、

一川田 應永十八年久忠公伊集院頼久ニ御爵陳、其後文明七年

嶋津修理充忠兼以來、村田越前守後誥として郡山上之原ニ而

合戦、忠兼得勝利、城主川田飛彈守也、

一高式拾五石 今号曼茶院院 一多聞院 一本地院

一圓融寺 高式拾五石 高式拾五石

一普賢院 高式拾五石

一義久公御代村田越前守経定領之、其子季久其子右衛門経平其

子刑部経永迄領之、

一満家左近將監資宗賜鎌倉將軍家之下文、被補満家院郡司職、東侯・小山田・比志嶋・川田・西侯、依加治木八郎親平讓知行也、自是郡山者郡山弥三郎良平^{親平}領之、道鑑公御代郡山、郡山弥三郎賴年領之、

一平等寺 厚地村之内

久豊公為伊集院賴久御妹^久御退治、嶋津上総介久世子^久・島津山城守忠朗^{守久}・市來備後守家親被謀合、当寺へ御出張、

三將出張被成御待候處、無其儀約諾相違ニ付、賴久精兵一千計を率御陣ニ押寄挑戦ス、合戦及合議漸御引取被成候、

○建保六年戊寅九月、賴朝公を中尊とし永金阿闍梨を左脇、丹後局を右脇として三躰像之木像御安置、御本地阿弥陀、藥師、拾壹面觀音之三躰也、願主 忠久公也、

○花尾權現 当社ハ建保六年忠久公為崇祖宗之神位、懸厚地麓以構廟社安置神位、中央ハ右大將賴朝公之神躰、左右ハ丹後局之不像与 永金阿闍梨之木像^{御局御在世之時}御綿依之僧なり相殿ニ立て、号花尾權現、厚地村一圓祭田として被寄附也、山上素より有一社、号熊野權現、從是山上山下通して花尾權現と云々、

一花尾山 平等王院 真大乘院兼帶 花尾權現別當也、建保六年建立、開山永金阿闍梨、中古及敗壞、宝永五年春、吉貴^(愛染)公御再興、本尊染王明王、弘法大師作、此本尊佐多豊前守久達より進上、義熙謹考、此愛染明王ハ賴朝公より忠久公へ被進候、渋谷愛染明王ニ而候を其後右之明王者護摩所へ御納メ今に花尾に有之ハ佐多豊前守より進上の明王也、

川邊郡 川一流村拾一

川邊

文治之比、川邊^{此道綱}太平道綱^綱本地頭有川辺平次郎道

息男川邊兵衛太郎久道事、依承久之兵乱而、宮方蒙御勘氣当地を被収公、其後又息男平次郎信道¹領之、及子孫、

一牧之城 貴久公御代平田安房介宗茂¹守之、守護方、

一高城^{号茶} 貞和二年六月、凶徒楯籠云々、○天文八年三月廿八日、

日新公発向、古殿此城守鎌田加賀守降参、即城を新納伊勢守に預給ふ、其後為質鎌田治郎左衛門之妻子遣田布施公居城、○天文五年五月十三日ニも城攻あり、忠良公之勢責之、同日落城有、

一本城 平山

イ翌日 天文八年三月廿八日、日新公御手入候故、同日新納氏守之、

一川邊城 ○上総介伊久守之、父子依不知嫡男播摩守守久平山城ニ對陳、雖及鉾楯 元久公以御吳見、守久事薩摩郡^二陣す、其後伊久より御当地御相傳之重物等、元久公江被讓進候者兩城之内ニ而候、受取候云々^{兩城ハ平山川邊之間歟}、其後伊集院彈正少弼賴久守之、應永十九年之比、伊作之嫡孫上総介久世請賴久而居城とす、其後應永廿二年息大太郎久林当城を捧大寺山門院に退去す、

松尾城 在多添村

大太郎久林家臣酒匂紀伊守守之、應永廿四年九月上旬、密に通太守二軍を当城ニ引入、雖然内城野頸陸堅固也、于時長門守知智之上木場より馳來、伊集院賴久兵三百率、其外南方之軍勢為後詰、^松尾山之口平川三陣を取川邊を伺、其後諸所軍勢味方ニ走加り城中ニ内通し、薙野原に陣す、其時賴久野頸

下り内城の岸を渡口に、当川流に城式ツを構陣す、九月十一日味方川を渡、敵を城内ニ追入、頼久陳門を開突出、数刻防戦、味方失利、和泉兄弟已下数多戦死、平田右馬介重宗当城に切通り従兵百餘なり、城中糧乏而難堪籠城、吉田若狭守和睦を頼久に乞、頼久雖不慮、若狭守頼に和を求、頼久曰、鹿兒島・谷山・給黎三ヶ所の地を賜らは可解困云、吉田氏は是を太守ニ告、太守則谷山・給黎を与へ鹿兒島ハ諸勢帰陣し後、可去渡と云々、於茲頼久解困谷山入本城云々、

○應永廿二年乙未、河邊鹿兒島と和談有而、久豊公川邊ニ光儀有之、久世奔走有之而後御帰陣鹿兒島也、

○飯倉三所権現 社頭 良氏 在宮村

一香芳山 清水寺 宝光院 真大乘院末

一龍豊山 玉泉寺 曹田布施 常珠寺末 高七石

一忠徳山 宝福寺 曹市来金鐘寺末 忠良公・久保公御牌あり、

右寺至山上路程拾八丁、山中御積多、

一明山塔 在南添村田ノ中

右、應永廿四年九月上旬、禰占右馬助清平於此所戦死、墓あり、明山安清大禪定門と号す、依而禰明山塔、其外戦死多墓

在、外二三墓有、

一宮村

貴久公より平田安房介宗茂へ賜氏此地、其後文禄四年乙未日、

義久公肝付三郎五郎兼云拝領之、

一清水村 右同断

慶長四年己亥兼三公於当地賜家督越前守兼篤、彈正兼盛、然ニ二男也

兼三依去当家之事清水村高八百餘石を被除候、

一長田村 当分此村なし

貴久公より平田安房介宗茂へ賜之、依去谷山山田村移此地、

一忠徳山 曹洞宗市来金鐘寺末、宝福寺、開山字堂覚尼禪師、

開基年月不詳、禪師ハ薩州日置郡藤原氏久木崎光兼入道出、子なり

母懷妊ノ時胸間スニカ記字の相を現す、依之刺髪染衣して記を諱

とす、加州瑞川寺之竹窓智巖ニ随而法を学、智巖之法を繼て

應永廿一年甲午本州に還り、先鳥帽子岳ニ薩州谷山郡居之、谷山ニあり

又熊嶽に同河邊ニ在、俗ニ入之、後遂ニ右寺を建立す、

一龍豊山 玉泉寺 曹田布施常珠寺末、明應五年丙辰 忠国公

御建立 三國名一開山社あり 開山弟和和尚、玉泉智芳大姉御菩提所 忠国公ニ

摩守用、久室

川邊郡

加世田 浦三 小浦・小松原浦・片浦、山一、野間山、

天文九年春より日新公御居住被成候歟、

忠久公御代別府五郎平正明 川邊平次郎大夫領之、当郷御手裏吉道之二男也

ニ不入候付、新納伊勢守康久入道一和蒙 公命、伊作田尻村

之百姓荒之原ニ和謀為忍遣、加世田城火を放燒落、依降 公

之旗下、因此功右百姓士ニ被召成、田尻荒之原と名乗也 元来土民

ノ武功あるを以、預此事、

其後康久智ニ取候、

一御飯屋 麓にあり

一別府城 ○建久之比、別府五郎忠明守之、○曆應四五年之間

度々攻撃也、應永四年十二月伊作久義攻当城、陣ヲ屯お勢之

像、同十二年比、別府氏及鮫島氏属守護方、南方無吳ニ成、

右條々城攻之時 本城新城、大寺越前守・鎌田加賀守率川邊山ノ事ヲ云

田之勢為助新城ノ兵、貴久公指探汗馬而殺討之、就凶徒斷、其後公軍殆向敗北時ニ右馬頭忠將大ニ進、衆兵力戰數刻、市來備前・猿渡与一左衛門・稅所助十郎・本田九郎・蒲生帶刀左衛門・同左衛門四郎等八人在名士遂戰死、終正月朔日本城新城拔之、其後日新公御在城なり、

一本城 一新城

右面城天文八年正月朔日、日新公被攻落之候、嶋津八郎左衛門尉実久之兵守之、

一鶴之鶴 應永四年十二月伊作大隅守久義与別府某於此所對陳也、有廻合、然後同十二年之比別府氏・鯨島氏属御旗下、

一津口番所 在片浦 自他国之商船往返之要津也、

一鷹屋大明神 社司鯨島氏 竹屋大明神 今作鷹

祭神三座 火門降命 火々出見尊 異本ニ祭神壹座彦火々出見尊 文明十八年十一月十五日棟札大檀那嶋津藤原朝臣重久并

大施主地頭平朝臣兼安同惟宗朝臣家簾 祭米六石

一野間權現宮 座主愛染院 社司右同人

一十二所權現 片浦にあり 社司右同人

一八幡宮 益山村ニ有 社司江田源五衛門

康和二年庚辰九月廿五日示現傳云、

武内大臣之子孫紀氏平山某勸請と云、

一六角堂 忠国公御靈骨奉納 杉本寺格護

一雲林寺 寶龜寺 金泉寺 真大乘院末

一龍護山 日新寺 曹田布施常珠寺末、往古薩州家之為

一常潤院 日新寺境内 一白龜山 安養院淨福寺 時衆宗相州

一明星山 淨蓮院 杉本寺 一乘院末

一常潤院 日新寺境内 一白龜山 安養院淨福寺 藤沢山末寺

開山法印廣範 開基年月不詳、
忠国公 大岳玄誓御廟所号六角堂、

古今泉寺末野權現座主

一野間山 龍泉寺 愛染院

一都仁塚 在唐仁原村

右者、伊地知彈正少弼季隨事、從 太守氏久公赴越前金隈挑

戰之際、味方之軍將向敗北、于時謂家臣福崎主稅介日曾我

嶋津氏向強敵遂戰死可報 貞久之厚恩、汝從氏久公主運謀

略販本国与請乞氏久公之兵器、觀應二年庚午九月廿八日名乘

島津氏久遂戰死、年三拾六、法号光輝都仁庵主、為菩提

建西照寺云々、季隨死體遥經海路此地に漂着ス、何直ニ此所

に葬、墳基世人彌都仁塚也、

一地頭市來備前守家簾 日新公御代文明十八年十一月十五日鷹屋

明應九年庚申十月十一日 伊作河内守久逸主為凶徒

退治、催四ヶ所之軍勢打入、軍敗而久逸主於此所戰死、六拾

壹歳、(圓)田新右衛門某奉討之 加世田内山田村(大坪百姓と也、(電)方

同主戰死之者伊作宗六・西俣源四郎・三原九郎左衛門・中村

氏・高崎氏・野村太郎左衛門康綱等なり、

一加世田城

嶋津実久一族守之、天文六年丁酉四月上旬、実久來丁加世田、

五月中旬忠良見実久為和睦、其意ハ則国家安全ニて、民意未

久、忠良語実久曰、伊集院鹿兒島谿山古田之地許子子之領所、

加世田川邊兩地与我則自節已後如是、莫少も無間斷、誰敢取

て侮我三州実久不諾、後に反而与祁答院共謀略益為忠節、公

之憤恨、同七年十二月廿八日忠良公父子欲打加世田之時、備

酒肴祝良辰之處、忽有御虫之瑞、父子共感謝之酒三爵、而後即發向加世田、此地古より有五壘^(堀)、貴久公次第鳴津右馬頭忠朝為大將、從擲手攻之故、翌朝本城稻而乘勝、此時富松左京亮、大山宮内少輔^{実久}短兵相接而、其一所ニ死、阿多飛彈守ハ老中城中高山内藏之介并戰死す、其外城兵大に潰、此時而敵相支其後^{此下本書ニなし}本ノママ

一片浦 在番^(鑑)

此所文明十二年正月朔日大魚上ル、長二十四尋短五尋數式百疋

中山傳信錄天妃靈應記拔書 字日惟慙母王民^(氏)

天妃莆日湄州岐林氏女也、父名愿一云林字第六ノ女、宋官都巡檢タリ、妃生而神靈少与郡女照井有神、捧銅符書以投妃郡女奔駭ス、自是屢著神意常乘片席、渡海入感稱為通賢、靈女一日方ニ織忽據機、瞑座顔色變異母蹴越向之寐而泣曰、父無恙兄歿矣、有項信羊父与兄渡海舟覆、若有按之者父得不溺兄以抱摧遂墮海死、^(雅)應照四年昇化于湄洲、此妃生于建隆元年庚申三月廿三日、接妃于宋太宗、應照四年九月初九日昇化ス、空處二十八歳、則當以建隆元年ノ一説為是生彌月不泣名日、默時顯靈應或示夢或示神燈海舟獲庇無敢士人相率祀之、宗之徽宗宣和五年給事中路允廼使高麗ハ舟溺ス、其七獨允廼舟見神ノ朱衣座桅上遂安帰国聞于朝給廟額日、須濟高宗給與二十年始封靈應夫人賜廟額日靈應已下略ス、

一龍護山 日新寺 曹洞宗常珠寺末寺 開山泰應看仙和尚 開基年不詳、梅岳常潤在家菩薩、忠良公御牌立御影常潤院ニ御安置、此寺住古号保泉寺、薩州家、日新公御在世之時被改号、日

新寺ハ天文年中ト云々、

一野間權現 祭神五座^(尊々)杵尊等鹿茸津姬^(尊々)火大明神并婦人媛那^(尊々)國婦人を会祭、山上素より有一社号熊野權現、則伊弉冉尊也、是日東宮西宮ハ即野間權現也、例祭正月廿日、

一白龜山 安養院 淨福寺 相州藤沢山末寺、應永庚戌年造立、開山尊觀親王^{遊行}十二世 寬庭芳有^(看カ)大姉貴久公為御牌所日新公御建立なり

一常潤院本尊長谷觀音 阿弥陀如来^{日新公}常潤院 江御遊之日、俄に雪降て気色たくひなかりける折 日新公音に聞野山の雪のあけほのもかゝる時にや簾をまきけむ

薩州河邊郡 明曆三年酉九月十八日為一郷之地、異に明曆四年二月二日よりとも、

山田 祭米三十五升 一玉子大明神 社官高良氏 所祭内開聞

一妙見山 宝生院 光明寺 真一乘院末

一永谷山 善積寺 曹肥後 悟真寺末明峯派

善積寺開山者東方和尚^{悟真寺}、當時回祿之時旧記委失亡、自夫行絶、家久公有命ニ而為勸作守、島津下野守久元、喜入

撰津守忠政証狀有之、○開基年月不詳、開山東方和尚^{右源和}傳称東峯此山に住し時、山中に毒蛇有之、人民を悩して毒氣烟火燈難然降伏するハなし、東方彼窟前に禅座する事三日也、

毒蛇たちまち脱苦身生天スト云なり、今件之窟寺裏に有、俗ニ蛇を呼謬而鬼穴寺と此事を唱、上総介貞久公法徳と御感有而、薩隅日三州ニ勸化御免ニ而今以勸化いたし候、

河邊郡 浦二 枕崎浦 白沢浦津

鹿籠

一 妙見大菩薩 社官山崎氏 所祭破軍皇 例祭九月十九日、

高拾七石 領主喜入氏持高之内より寄附

一 宝寿山 満願寺 神護院 真一乗院末

高式拾七石 右同斷

一 福寿山 長寺 曹福昌寺末

三国名一長善寺

一 文明之比、島津薩摩守久領之、薩州家二代、天文ノ比日新公

御領地ニ而嶋津左兵衛尉尚久忠良公領之、其後所替有之、

一 旧跡古戰場之場所不詳、

一金山

河邊郡 武備志云、坊津湊 泊津湊浦一浦 一坊津 泊津、

坊泊 純庸云、往古可為加世田郷坊津、

古跡倭漢ノ商船入津ニ而当分肥州長崎の如く繁榮之

地也ト云々、

一 津口番所之寺有故名付と云々、

自他国之商船往返之要津なり、

一 遠見番所 在春嶽

祭米吉斗七升五合 元禄二年再興、当地頭伊地知奎右衛門事、

勝国勝長神猿田彦命

一 九玉大明神 坊ニ有 社官長野氏 祭神二座

高式百五拾六石餘

一 如意珠山 龍巖寺 一乘院 京都仁和寺末寺、薩隅日真言宗

廣沢方門首

中興開山成圓上入也、舊鳥羽院勅領所也、天文十五年二月、

後奈良院勅願所となる、西海金剛峯寺一乘院人皇三十一代敏

達天皇十二年癸卯、百濟王日羅來朝之時、此所に來り造立す、

○後奈良院勅願西海金剛峯ノ願あり、

高六石餘

一 東山 海印寺 臨濟宗五山派廣濟寺末 一清山廣太寺上同、

三国名一東海山

高三斗

一 海室山清水院法光寺 時聚相州藤沢山末

高式石

一 無量寿山 西勝寺 大印院 真一乗院末

一 永正十三年備中国建崎住人三宅和泉守国秀、琉球国為退治、

兵船十式艘ニ而當津ニ着岸、依之忠隆公 將軍義隆公江言上

ある 御追伐被成候、

一 唐湊 一湊口廣サ三町四拾間、俗ニはしの浦と云、入廿式町

深三拾六尋、又ハ舞臺の浦と云ふ、

久寿之歌に

頼めともあまのこなたに見えぬや

いかゝはすへき唐のみなとに

純庸記○当地ハ寛正年間薩州家嶋津国久より天文之初実久迄

加世田領地の時、可為併領歟、其後日新公御領分な

り、永禄七年甲子六月十七日、御領地、

一 東山 海印寺

三国名一東海山

開山光叟和尚、延文式年丁酉、開基大檀那并施者不相知、太

守忠国公御牌立、右之段者忠国公琉球国江御渡海可為成由、

御船待之處ニ於茅野御逝去ニ付、御牌相立也、被成御座所者

茅野村合茅野門名頭屋敷当分居候家の前なりと申傳ふ、大岳

公御牌前へ日新公より御花沓部御寄附、永曆五曆中秋大願主

在家菩薩日新有之、当寺地行古ハ鹿籠の内在形と申所宅町為

有之と申傳、今に此所を海印寺免と申泊津拾八石相付候処、

今ハ五石有之なり、慶長十一年九月廿二日、大岳公御牌領と

して知行六石被召附候、島津圖書頭忠長入道紹益書付有之、

一戸柱大明神

一棟札大檀那嶋津中納言藤原朝臣家久、当地頭寺山出羽守久豊、施主日高九兵衛尉・山崎土佐守・宮内大炊助、当願主森岡太郎・長濱助次郎、寛永五戊辰六月廿六日

一右同大檀主嶋津侍従公藤原光久朝臣并ニ綱久万治元年戊戌霜月吉日、当地頭大野源左衛門尉

一近衛やしき

一乗院より濱之方下れハ三町程あり、路如左也、当分明屋敷にて五畦はかりも有之歟、信尹公御居住の時ハ、当分脇のやしきへも可相掛敷、

右、文禄三年甲午五月下旬、近衛関白信尹公なり、故配流当浸の節之御事也、

一硯川 信尹公御すゝりの水に用ひられしとなり、一乗院仁王門より三拾間ほと濱の方へ下る路左小川脇岩の狭間より流出る、本結の筋のこつく纒に流なり、

一近衛左大臣従一位信尹公遇難遁左遷下向薩州被遂配所於坊津其時のやしき又ハ硯水に被用此川の水なり時に称左兵衛佐信輔又云信尹

一信尹公御事、旧記に文禄四年己未三月、近衛様鹿兒島に御光臨有而、立野といふ所に仮殿を造給ふ、龍伯公御慈悲の故

なり、慶長元丙申七月十日御帰京とあり、

坊津八景

今日もはやくれにかたむく松山の
かねのひゝきにこそく山人

松山のみとりの庵に寺ありと告るもさひし入相のかね

深浦夜雨

船とめて蓬も露ハ深浦の
音もなけきの夜の雨かな

浮雲は猶かさなりて深うらや入海くらき夜半の村雨

中嶋晴嵐 松はらやふもとにつゝく中嶋も
あらしにはるゝ峯のしらくも

雲はろふ松の嵐の風そひて岩ねにきはふ中嶋のなみ

霧ヶ崎暮雪 霧ヶ崎や松の梢も白妙に
常盤のいろも雪の夕くれ

白妙にふりうつもれて霧ヶ崎暮るゝも分ぬ雪のさやけき

亀浦帰帆

亀ヶ浦や釣せぬ先に白波の
うきとみて帰る船人

沖にゐてけふもくれぬと亀ヶ浦の磯の波分かへる釣ふね

網代夕照

磯きわのくらし網代の海かけも
夕日のあとに照すかゝり火

納て引あしろの波にうつろひて残る夕日の影そたゆそふ

御崎秋月

イニクヘリシ

あら磯の岩間くゝれる秋の月影を御崎の波にひたして

田代落鴈

行末は南の海の遠^(三國名)や田代に落る鴈のひとつら

信伊公上京之時一乗院使者法印錢別の歌

及ひなき雲の上まで登る月の影をしまれてぬるゝ袖かな

信尹公御返し

人目のミ繁き浦半にすみ染の袖にはをしき名残りなりけり

一九玉大明神

棟札云、奉再興九玉大明神御宝殿一字、九州大守修理太夫藤原朝臣義久御息災安主 天正十三年己酉五月廿七日当地頭本田与五郎親利、

一奉再興南瞻部州大日本加世田社泊津九玉大明神鳥居一基之事、

地頭東郷肥前守、当役人貴嶋掃部介満安、作事奉行原對馬助

正保、二南呂吉祥辰法主敬白、○宝殿并拜殿

一右同棟札、奉造立御宝殿一字、藤原家久朝臣御息災安主、当

地頭役是枝重道坊并当役人原對馬守、寛永七年庚午霜月吉日
浦三^上村 博多浦 秋目浦

河邊郡 純庸云、当郷旧一月^①、加世田郷の端津敷、九玉社棟札ニ加世田村秋目津と有之、

久志秋目

祭米壹斗七升五合 武備志ニ久志湊 秋目湊

一九玉大明神 両所にあり、秋目ノ社司生駒氏、秋目に鎮座、所祭猿田彦命、

一宝龜山 阿弥陀寺 安養院真一乘院末、権現宮座主、硫黄島熊野

禪加世田日新寺末寺

一古宝山 東泉寺

寛正年間 嶋津薩摩守久領、^(脱字)^(享)享禄天文年間島津実久領、永禄年間より日新公御領の時分、地頭島津又五郎忠長、

一久志九玉大明神 棟札云、当領主藤原国久、当地頭藤原秀家、

一寛正五年甲申久志家親願主吉見、享禄二年己丑九月廿七日、

○右同大檀那嶋津藤原朝臣日新、当檀那島津藤原朝臣忠長、

信心施主指宿安藝守貞幸・兒玉佐渡守盛実、願主税撮正、永禄七年甲子十二月二日、

○天文七年十二月、島嶋実久加世田落城已後天文八年より日新

公御領ニ相成候、

○九玉大明神 大檀英薩遇日三州太守藤原朝臣貴久并日新、右

檀主御息災延命身心勇健武運長久、元龜二年戊午卯月吉日、

当地頭島津藤原朝臣尚久、当社人伊駒佐渡守述次、当役人鎌

田治部左衛門藤原正真、当かりや返ケ木對馬助源国門、○右

同大檀英藤原家久朝臣女大施主、于時慶長四年己卯三月吉日、

当地頭飯牟禮權右衛門光秀、

一仏徳山 正法寺 日新末寺

開基年月不知、日新寺二世玉渚等致和尙 ^(三国名等興とあり) 開山持明彭空庵主、

御牌有之、寺家及朽損候処、光久公御代当住銭秀、寛文元年九月致再興候、

一大通庵 右同断

開山興庵久公禪師宝徳年間、開基の年月不詳之人なり

一坂や地秋目 潮入小溝流候涯、濱の涯なり

右年代ハ詳かならず候へとも、持明様一兩年之内被成御座候地ニ而申傳ふ、其以前より返ケ木氏居住之地なり、

河邊郡 類聚名所集日奥小嶋是なり惣廻り古書云 式里五丁

云日黄共 硫黄嶋

宗廟祭神米六斗式升五合餘

一熊野権現社 宮司長濱頼母

傳称平判官唐頼法印丹波少将成経新大納言成親の事也、法性寺執行

俊寛依謀反為^①分^②界嶋是也、高倉院治承元年丁酉六月此地江

謫居の節草創と云々、其後経多歳霜而、義弘公朝鮮国御渡

梶の御寄進御再興有之候、

但右、流刊の所者鬼界島と諸記ニ相見得候へとも、此地う

たかひなきものなり、

一俊寛宮 在嶋南方、号御新大明神

俊寛僧都死去之後葬此所、

一足摺石

康頼法印并成経得赦免帰京出帆之折、俊寛僧都老人歎此地止石上ニ而足摺して悲戀、兩人の帰京のゆへ為名と云々、

一投筆の石

僧都比石上に筆を投し由云傳、

○類聚名所集 薩摩国奥小嶋

千載集

薩摩かた奥の小嶋に我はありとおやにハ告よ八重の汐風

右、平庸頼

神（龍）米式石六斗式升五合

一権現宮熊野上座主安養院久志秋目

所祭同紀州熊野三所

右、社頭修造の儀嶋人助力を以相調候、雖然、嶋人不及手節者、

彼嶋在番見賦を以御手船江相附、寺社奉行所江申出候節、應修甫

合力（銀）被仰付候、

千載集云

心の外なる事ありて知ぬ国に侍りける時讀る

形はかり浮身の程もわすられて猶こひしきハ都なりけり

東鏡に云、文治二年十一月廿二日、宇都宮所衆信房御使として下

向、鎮西是天野藤内遠景相共に可追討貴海嶋之旨、依嚴命也、件

之嶋ハ平家在世之時、薩摩住人阿多平權主忠景蒙勅勘在此嶋、此

度同意豫州之輩隠住彼嶋歟有依有御疑也、

一傳称、成程庸頼配流之間、請熊野神而祈歸落、此時俊寛不肯、雖

然、成経庸頼赦免之後、俊寛悔而建立於社云々、

産物

一疏（硫）黄

河邊郡

惣廻り三里拾三町、武備志他計什麻亦鷹嶋

竹嶋

一聖大明神 祭神不詳

一産物 直竹 筆

河邊郡

黒嶋 惣廻り三里拾三丁 硫黄属嶋也、

一黒嶋大明神 祭神不詳

一（龍）尾大明神

一臨濟宗 廣濟寺末

清月寺

河邊郡 七嶋 武備志日本図ニ七嶋産物輕節名産也、

御船奉行支配

一口之嶋 惣廻り式り拾八丁

一八幡宮 一弁才天 一觀音堂

一照日大神宮 一北山大明神 一地主權現

一（寺）宮權現 一若宮 一川祭大明神

一荒神宮 一聖之宮 一西濱權現

一阿弥陀堂 一不動堂 一地蔵堂

一天徳山 潮青寺 曹洞宗

一中之嶋

一地主大明神 一八幡宮 一嶋中權現

一中嶋權現 一北山大明神 一弁才天

一屋代南權現宮 一白喜玉頭大明神 一鳥羽田三所權現宮

一御校蔵王權現 一平瀬大權現 一風本權現宮

一景良堂清水前 一葉師堂 一觀音堂

一阿弥陀堂二所有之一 一福寿山宝蔵寺 曹洞宗

一臥蛇島 豎拾八丁 横五丁

一八幡宮 一若宮 一地蔵堂

一龍驕庵 一海蔵庵

永享八年八月十日、為料所薩摩守好種子嶋氏十代左近將監賜蛇嶋、

一諏訪之瀬島 惣廻り五リ

一八幡宮 一若宮大明神 一地主權現

一屋代明神 一猿山明神 一権現宮

一阿弥陀堂 一十王堂 一龍寿山

圓命院真言 一宝寿山龍呂寺禪 一宝積寺真言

一平之嶋 豎拾八丁 横四丁

永享八年八月十日、薩摩守好久より為料所、左近將監^權時賜当嶋、

但此時好久太守忠国公ニ願聴国政故なり、併本領種子嶋・屋久

嶋・永良部嶋、

一惡石嶋 惣廻拾八丁

一鎮守大明神 一玉^寺權現

一八幡宮 一弁才天 一風本權現

一^御神大明神 一墓宮大明神 一^跡目大明神

一觀音堂 一藥師堂 一平家堂

一阿弥陀堂 一千手觀音堂 一不動堂

一伽藍堂 一祇^寺山宝寿山 曹洞宗

一宝積寺 一嵩子神社 崇^本ノママ
一あたあん大明神

一御宮前 一上極大明神 一川祭大明神

一浦三 川尻浦 脇浦 石垣浦

一山一 開聞山 川一流

一山一 開聞山 川一流

一山一 開聞山 川一流

一鏡池 無水地 其形始如圓鏡 旱水多^淵

平治之比、顯娃三郎平忠長^{式永川邊平次郎平道房弟也}・同太次郎

忠方・同孫子弥次郎忠澄三代之間傳領之、諏訪社棟札犬願主嶋津

小四郎久虎、当地頭竹内大炊介実^重、天正三年戊寅九月廿二日と

あり、

右、小四郎ハ六代次郎兼有養子、上天山城守兼賢二男有兼弟也、

道鑑公御代、顯娃次郎左衛門尉藤原久純^{益山太郎兼純}領之、應永

之比、顯娃美作守兼政^{肝付河内守伴兼元}守成、子孫傳領之^{久豐公}

領^な太守元久公顯娃太郎憲純御治野有之、当地を御舍御弟久豊

公ニ御拝領ニ而被領之、南殿と奉称候、其後、公日州穆佐院ニ御

移候、八代之太守ニ備玉ふ、其跡右兼政ニ被下候、

一應永廿七年久豊公攻取之、顯娃老族小牧氏ニ賜之、其後依有逆心

被攻亡之間、肝付家二男当所及指宿山川を知行す、

神領高式百六名 祭米五斗式升五合

一開聞宮 祠宮紀紋太夫 座主瑞應院^{イ号}御積共 和多都美明神、或旧

記云、白鳳式年建立、

所祭九座 猿田彦大神 彦火々出見命^ニ 豐玉姬 塩土老翁

玉依姬 大己貴命

天聖天皇例祭九月九日、薩摩の一ノ宮也、開聞宮者御代々御崇敬

ニ而、吉貴公被成御家督之節、当地頭御代參を以白銀遣納有之候、

開聞宮鐘銘

奉施入

當国一宮開門社

鉦鐘壹口

或記云左衛門尉憲純ト記ス、又云憲純ハ
(伊九) 旧豫掾純友之後胤也と

鑄用途壹百貫文

右、所奉施入如件

永和五年三月八日

(當カ)
尚郡領主左衛門尉憲純

祭米吉名

一大野嶽權現 社司都外川伊与

一開聞山普門寺 瑞應院 真大乘院末

高拾四石餘

一平源山證奥寺 禪福昌寺末、開山仲翁和尚

高尓名

(院カ)
一護誠山常樂寺 安養寺 一乘院末 大野嶽座主

空(總)嶋

或開聞山景行天皇拾年庚寅冬十月三日之一夜、国土震動之風雪鼓波而忽涌出すと記す、或盤徳帝御宇とも、一説長珠山とも、亦嶋着嶋とも、

名所のうた 近衛信輔公歟、
薩摩かた(或ハ浪の上なる空穂嶋) 額娃の郡の空穂嶋これやつくしの富士と云らん

信輔公鏡の池の嶋を見給ひ

薩摩かた鏡の池のひとつおしをのかかけをや友と見るらん

川尻の天神宮ニ而信輔公文禄四年四月四日

いつの世に爰にきたの、神となり和歌の浦浪よせて見るらん
自兼政八世領此地、至八代弥三郎久音、依伊集院幸侃の讒訴、義久公より額娃山川指宿三ヶ所被召放、天正十六年戊子十一月、久音六才之時谷山之内山田三拾町采地を賜、文禄二癸巳賜伊集院の内西侯領之、勝部兵右衛門寛書云、

天正七年之比かとよ、額娃左馬介家臣共不思議之内乱あり、其基を聞に額娃城の助・孫左馬介忠時の息男・嫡子九郎家繼(忠カ)と舎弟之小四郎久虎と不快の事あり、其故ハ大典厩卒去後、九郎忠繼繼母に被疎諸行不任心、勘忍なりかたくて、肝付を頼出退暫居られける。左様躰なれハ、家臣等も小四郎を取立崇敬する事不斜、其比より守護忠兼と至淨乱(之)之折節なり、然とも貴久方次第に其勢大なれハ、忠兼方の人々心まちまちして不定、其時指宿忠兼之臣田代民部介為地頭之處、額娃家家老津曲入道俊宗謀を廻し指宿城をぬけ民部少輔助命遁落ける、其儘指宿を知行して俊宗之息津曲若狭守・同賀之額娃左近将監当地頭定置、兎角して時刻相待ほとに貴久執玉ふ威武を見て、俊宗入道額娃宅家之人々に談合し、貴久可被参之由申入れ、初而谷山村神前当分久虎召出され、額娃指宿南郷無異儀令安堵処に、嫡子九郎忠繼ハ肝付落去之後者守護方ニ参り方々内遊し勘忍ありけるか、額娃に立帰るへき事を色々被調法ける、額娃年来のものとも彼ハ誠ニ嫡子なりとて大凡九郎に相従ふもの多し、津曲入道承何を是とすへき、皆譜代相應に主人なり、殊ニ島津中務太夫御心副られ被取計候由聞なれハ、可然も可相調舎弟ニ而候得者、九郎額娃一部を取らせ惣領被仰付、小四郎者指宿一郡領分して両端の如く家を立るものならハ、額娃の家長久たるへしと評定する処ニ、額娃新左衛門尉兼重最前より一件に小四郎を守立候者なれハ無別儀、舅之事なれとも津曲入道ニも不為知家中出頭侍らん二者、同相賀之額娃左近将監・竹内伊豆守・鮫島因幡守宗勝・額娃掃部介・竹内(之)芳入道・津曲飛彈入道俊丁・大田隼人佐・神宮司治部少輔・安樂伊賀守・加世田石見守・同名出羽守久永・權守齊藤藏人此人々に内談して、此由聞付不及力を

の成行を伺兼勿論用意の事なれハ、開門山に押寄取囲ミ社頭も不
忍押寄攻入候者、忠継今ハ何を可待とて小長主押取切て出、散
々切廻攻入候者を追立、神殿に少息と休めける、新左衛門これ
を見て、願處とて弓を以て射る、九郎真中を射通さる、其儘相果申
候、夫より座取坊主を始九郎方ニ相したかふものとも少々ありけ
る不如不如に討れけり、俊宗入道是を聞落涙しけり、扱九郎打而
後、小四郎若年ニ而者あり何事も後室執行なれハ、立道用義もの
ハ^⑧三不叶故ニヤ、輕科も被行重罪南郷のもの共蒙不意之罪者多
し、人安からすおもへとも、小四郎母の事なれハ可為如何様なし、
其後小四郎へ左馬介申ける、今日兎角して時日押移る處に、後室
弥證給へハ如今我々として逆も譜代の功をむなくして、左馬介
ニ奉公可有始終とも不覺、此事左馬介ニひそかに訴御承引もあら
ハ、後室御隠居させ申、左馬介ニ能諫言せは世ニ僻事出来らしと
宗徒の者評議す、されとも左馬介心中如何とおもへハ言出す者な
し、猶も誇玉へハ不得止事候て、宗徒の人々、俊宗入道の弟津曲
飛彈入道俊計・同式部少輔・竹内^⑨房入道・同子息甚介・同弟鴟
射・大田隼人佐・神宮司治部少輔・同弟主税介・安樂伊賀守・同
子息又左衛門尉拾人其外同意のもの多けれども後ニハ有置しとそ
聞ける、彼拾人ハ一途ニ連判して左馬介久虎に申けるハ、何事も
後室の御計なり、世に謗を受玉わん事一定なり、自他国之覺不可
然、所詮後室を^⑩政事と不進も久虎御校量旦ハ家老役人に執行させ
玉候ハ、誹謗に沙汰有間敷と存候旨、密々加諫言、左馬介も無
了簡被思ける、誠に母の御事なれハ此事を後室こそ左馬介被仰、
後室大ニ腹立して我何その他の謗を取ん事を不知、我又有罪者なら
ハ、定而免罪に行われん、父母を云々為親母ハ親ニ而あらずや、

彼等に罪を不被行ハ我と左馬介之手ニかけて可被害と落涙して^⑪
られけれハ、左馬介孝義を思へる人ならハ不及カ、一々思案する
に、彼ものハ先年九郎殿内乱之時、ひとへに味方の功を成せし忠
人なれ共、今日如何すき様なしとて、重罪に可被行とそ聞へけ
る、連判の人々無所遁して以上百餘人一所に取寄て、今日ハ無力
腹を冷敷可切とぞ定ける、左馬介も打悪んで被思けるに、顯娃
新左衛門・鯨嶋因幡守・竹内伊豆守^⑫二而、使僧を以させる事な
きに何ぞ重科たらん、一旦の御勘氣左様の軀不可然、先指宿如く
引退、寺家をも頼次第に被申分と口説けれハ不及力、左らハ先如
指宿可相退迎、指宿引退要害ニ楯籠、猶左馬介も輒難打思われけ
る處ニ、大守義久公聞給ひ、本田刑部少輔政親^⑬後因幡守左
馬介姉^⑭和乎^⑮と
として差越る、刑部少輔顯娃にいたり左馬介ニ能申答、其後指宿
ニ差越、和談あらハ可然ニ指宿の一族共計に和平の調議申定、君
臣の法とて連判の頭拾人已下百餘人顯娃之内周應寺ニこそ入ける、
刑部者其後鹿兒島の如く帰参あり、左馬介其後南郷のものを催し、
大守ニ押寄悉打果す、何も強勇のもの共故思々に相働中ニも、竹
内甚助者大精兵なれハ、射矢物天を透れ射殺さるゝもの多し、皆
々生死不知に戦ける故、南郷二手に負死人若干なり、

揖宿郡 浦二 摺之濱湊浦 摺濱湯湊湯

揖宿 産物 赤貝 塩辛

一 忠宗公御代郡司石堂入道と有之、

一 平治之比顯娃三郎忠永之二男、

一 忠久公御代指宿五郎忠光・其子太郎忠元・其子平四郎忠秀・其子
小次郎忠成・其子又次郎忠運・同彦次郎忠篤・同能登守忠勝・同

正忠・同女子師犬 同近江守忠全・同頼忠・同朝忠・同光忠と系位、右忠全迄者應永十二年二月十一日之請狀家譜ニ見得たり、其時分迄領之歟、

一久豊公御代奈良美作領之鮫嶋四郎宗家苗裔なり、

一應永之比、奈良氏後詰之後、自 太守久豊公頼娃美作守兼政拜領此地、

○指宿城 應永廿六年之比、奈良美作守兄弟守之、背久豊公命、企

逆意故攻落し候、

宗祭米五計式升五合

一開門新宮大明神 社司堀之内氏 イニ新宮九社大明神
例祭十一月十一日

高六石

一西意山 宝蔵寺 長勝院 一乗院末

一安泰山 源忠寺 禪福昌寺末 大中様御牌立

一天文四年乙未九月廿七日、頼娃山城守兼洪率兵平而拔、本ノマ当寺天正

之比頼娃左馬介領之、

一称占右近大夫重長有故与党於肝付河内守兼續・伊地知周防介重興

下大隅田・伊東修理太夫義祐日州飢肥城主等而背義久公有年（十九）、

茲元龜二年辛未五月廿四日、重長授摺之濱、因茲発軍率追討之、

重長石屋越鳥濱後（勅）茂元而退、重長中矢然とも不撓拔其矢屢挑戰

後還、禰占家臣柏原権兵衛・鮫嶋主水・村山源次郎・有峯民部・

鳥濱大炊・伊集院主計・同三郎五郎等戦死なり、

指宿郡

今和泉 浦一瀬崎浦 池一池田池月廻三リ生
小魚

中宮大明神

棟札願主藤原安近、当領主甲斐守公秋、天徳四年丁丑仲冬廿二日願主藤原忠家、寛正二年辛巳十二月

願主齊藤豊前守利次、地頭津曲若狹守伴兼任、天文十三年甲辰十一月

十一月

日潤寺 不斷光院末

指宿郡

武備志ニ山川湊津一浦、山川湊兒ケ水浦

山川 一池一（鰻カ）池廻壹里 兒ケ水湯 鮎湯 嶋川湯

一津口番所 湊入口左方在洲崎、自他国之商船所聚要津也、往返之

船必由ル、自他国船改所也、

神領高老石老石七合八勺

一熊野権現 社司紀氏 所祭新宮司

高老石

一常住山 不動寺 宝持院 真一乗院末

一海雲山 正龍寺 臨五派 廣濟寺末 忍翁様御牌立

一應永之比、自 久豊公頼娃美作守兼政久豊公御養子
守兼元二男也、実肝付河内

拜領此地

一嶋川村 應永年間、與鹿兒島武村同時に入来院重頼元久公より賜

之、

自家系図 旧イニ二月二十日御先手之船出帆とあり、

一慶長四年己酉、家久公遣軍衆琉球国、於此時肝付越前守兼篤（勇カ）随男

兵百八拾餘人、二月廿五日発於喜入、同廿八日、家久公着御于山

川、兼篤ハ有可壓於大嶋之命、三月三日夜半、与諸軍同出船於山

川、七日到于大嶋深江浦、向諸處発兵、嶋中悉降、同十七日赴于

徳島、同廿五日進到于運先と飯仁城、未戦而没落矣、四月四日和

議成国主降城なり而、同年五月廿三日琉王を携而諸船此地に着岸

有而、同六月十七日此地出帆鹿兒島へ上府なり、

一滑川村 当邑者外国之藩籬なり、為称其周、應永年間鎌田源六左衛門晴只・兒玉某両士奉 久豊公命移居此国、為警衛者也、

一御飯や 在兒ヶ水村

一海雲山 正龍寺 開基年月不詳、陸奥守元久公御建立、虎森為入唐薩州ニ上着、此地當時を御創立、虎森住職有之候、開山也、

一此地頼娃氏代々領之、慶長十四年己酉二月、琉球国為退治遣百餘艘、饒嶺治罰之于時三月四日曉天解纜諸船峯帆、此時義弘公・家久公來過而此地、家久公湊之高山に被立床机指揮軍勢、其場所麓南方濱高山也、

給黎部 浦一喜入浦

喜入

一文治之比、頼娃三郎忠永領之也、有道弟也、

一忠久公御代、給黎兵衛尉有道河邊平次郎大夫平良道男、平次郎道房弟なり、領之、其子有平俊系、

一久経公御代、御舍弟常陸介忠経嫡子宗長領之、

一應永之比、伊集院彈正少弼頼久領之、

一天正之比、喜入式部太輔領之、

一給黎城 伊集院頼久守之、依不隨公命、應永廿一年久豊公被攻之、頼久伊作川邊之加勢を受、八月朔日知覧山を越松平荒平ニ着陣して後誥を残す、

太守自被向頼久、又本田某を將として南方敵に差向玉ふ、本田得勝利、公之軍敗而然而頼久城ニ入時ニ疏戸より加勢有而、御方駒返より城邊迄充滿す、頼久同六日之夜城拂而退去す、下永吉を和泉之庶子、上永吉を大寺長野左京ニ預玉ふ、

一三百餘社大明神 社司濱嶋氏 祭神不詳

高六石肝付氏持高之内より附ス、

一慈眼山 (三國名一花感) 花院 常寺 (三國名一法) 一乘院末

高拾八石

一頭山 (三國名一鶴頭山) 玉繁寺 禪福昌寺末

一應永七年庚戌十二月十三日、嶋津上総介伊久入道久哲主給当地半給入来院彈正少弼重頼 六世也、

一文祿四年己未、肝付三郎五郎兼三 彈正忠兼盛之後嗣也、伊集院忠棟入道幸侃三男、轉於加治木溝邊三臺堂賜此地、何十月十六日去加治木而移此地矣、

從是為不易之采地、万治二年己亥六月、轉真幸吉田之内正時寺村 (流之) 疏於此地、

一万松山清涼院 寛文十二年壬子春、為主殿久兼母堂清涼院芳屋靈

英庵主建立鹿兒島松原山中、其後移此地、梵宇建立之事者、依清涼院在世之時望也、

一松原 一荒原 一駒返 此三ヶ所應永廿一年合戦之節、陣場なり、

一文祿元年七月、細川兵部太輔藤孝入道幽斎奉殿下命下向当国梅北被下候、道洗征伐、其後國中改旋、神社仏閣被進帝勘落、其節指宿郷ニ通り被備五穀、此時当郷之内瀬々串村ニ而被詠吟之発句、

閑十二月十日比と云々、左上村、
せゝくしと嶋は冬田の雀かな、

喜入郡

知覧 天正年間佐多伯耆守領ス、
同比喜入式部太輔領之、

一文治之比、頼娃三郎忠家四男知覧四郎忠信領之、然シテ同次郎忠益・同四郎忠家・同早次郎能領之と系譜に見得たり、

一嘉曆之比之旧記ニ薩州知覧院 郡司平忠世知行之と有、

一道鑑公御代、大隅式部小三郎領之、

一天正十九年、佐多太郎次郎久慶去当郷移于川邊、当郷ハ為種子嶋家領、其子伯耆守忠充代再賜此地、

知寛城 應永廿七年之比、給黎長門守久俊賴久久豊公治罰之、然

共賴久依請、長門守并阿多飛彈守・鮫島某免許を蒙而、上之木場ハ佐多家由緒之地たるに依而賜之、

祭米三斗五升

(三國名、中宮)
中①三社大明神 社司赤崎氏 祭神一座豊玉姫

高拾壹石餘、嶋津李持高之内より寄附

一松峯山 持宝院 万福寺 一乘院末

高六石

一極楽山 西福寺 禪福昌寺末

正宝五年巳六月十日より佐多内記賜一所之地、

但寛文十二年子十月廿八日より佐多豊前久達地頭、其子丹波久利地頭、正徳元卯九月、拜領嶋津名字、

一浦二ツ 門ノ浦 松ヶ浦

上之木場城 應永廿六七年之比、伊集院長門守久俊号今給黎親戚伊集院賴久有当城、南方凶徒之棟札也、久豊公被攻之降伏軍門、

一阿多郡 純庸記云、應永年間、阿多飛彈守領、宝徳年間村田越前

阿多 守経久領、明應文龜永正年間、相模守忠良領、天文年間

日新公御領、其後肝付三郎九郎領之、其後伊集院源次郎

忠真領、旧記ニ阿多丹波領之、仕官久主候、田布施城と

云々、

一文治之比、阿多平四郎權守平忠景領之、其後忠景薩摩守信澄ニ阿

多郡司職をゆつると見へたり、

一同比、阿多平四郎藤原信澄阿多郡本地頭と旧記ニあり頼娃郡司藤原明純弟なり

一天正九年壬申三月廿四日、当地一瓢公退治、六月有和睦而公

則移此地、伊作高橋田布施阿多共ニ忠良公御領地なり、

北方城

文治之比、鮫島刑部丞藤原家高法師行願以下子孫傳領之駿河国鮫島郷司四郎藤原宗家男なり、宗家建久三年頼朝公より安堵之御教書を賜り下向当国矣、是阿多郡本地頭阿多平四郎宣澄依為平家なり、松坂 天文七年戊戌十二月晦日夜、日新公加世田御出馬之砌、此

邊狐火之瑞ありし処なり、

一日新公御代 阿多飛彈守経久守之、御家阿多歟、

祭米三斗五升

一日吉山王社 社司江田氏 所祭山王廿一社 在宮崎村、

高貳石

一水(國名、島)山 花藏院 上宮寺 真一乘院末

上宮寺ノ事年頭并御下向ノ節御祝物迄差上御目見不仕候、

高貳拾石

一千手山 大年寺 (石カ)曹田布施常珠寺末

一正岳寺 在渡(石カ)

右寺ハ、日新公御姉天津祐公庵主住持被成たる寺ニ而、若狹守後御牌御安置候、御死去ハ天文十八年十月なり、吉田若狹守位

清之夫人ニ而候処、位清吉田城没落之後、兩人之男子を携、当

地ニ御蟄居、其後①となり御住職被成候、若狹守宗清七郎次郎

清親之母堂なり、

應神天皇

○高良八幡宮 玉依姫 三座木像なり

神功皇后

右、前代中嶽山に建立有之処ニ、加世田御手ニ入時ニ御願ニ依而永祿十一年当分之地ニ遷宮なり、社内日新公御寄進物、

一三十六歌仙内九枚紛失 一具足 一三略 一鱈口

一神鏡廿二 一祝詞但日新公被仰付口^傳あり、

一棟札 奉造立高良八幡大神宮、大願主相州入道日新息災延命再興如件、

永祿貳年己未十一月廿日 倉稻魂命 但正躰

一稻荷社 祭神三座大田命 大宮姫命 厚板ニ梵字有、宝物一歌仙日新公御筆 一祝詞 但日新公被仰付口^傳あり、

一棟札 奉勸請稻荷大明神 大願主嶋津藤原朝臣忠幸并忠良、永正

九月壬申十二月五日、火曜宝岩 一棟札 奉造立稻荷大明神御宝殿一字 大願主藤原朝臣忠幸・忠良息災延これより下字不知、

一諏訪社 祭神式座^建御名方命^{事代主命} 但社内較一笛在一

中津野村 但肝付降伏之鞭

右、加世田御手ニ入時神舞御願有之、落城以後日新公御参詣被

成、神舞迄棧敷へ被成御座候、

一棟札 奉造立両頭之事、右之一趣略、大旦那藤原越前守経久、日新息次弟、于時宝徳三年辛未七月廿六日、藤原越前守経久書判在、

一同奉再興薩隅阿多中津野諏訪上下大明神、大檀那藤原朝臣忠良并

貴久、天文十一年壬丑十二月廿三日 当地頭嶋津治部右衛門尉

日吉原一町牟田 天文七年戊戌十二月廿九日、日新公加世田郷へ

御出場之折、集四ヶ所軍勢此所ニ而御談合有之、

指宿氏系図

一伊作平次貞時^{駿河介貞道}之子四天皇ノ一

從武蔵国薩州ニ下向、賜阿多郡

領分云々、

(王カ)

一新撰姓氏録云、神前阿多御手養火閑降命之六世孫薩摩若相樂ノ後也、又云阿多集人御手犬養ノ同祖火閑降命其後也、

上宮寺 当寺八百済国沙門日羅創建之、日羅事應敏達天皇命十二年癸秋来朝、一宿当国坊津云々^{往古号、初ヶ浦}、中興開山光嚴阿闍梨

一天文五年丙申五月五日、忠良公令阿多田布施^春、斯祭金岳南麓引卒勢兵於金峯神前即祈勝利、座主頼総法印行之、直ニ趣石上原半ハ

来觀音寺、於此所合戦味方勝利不拔、其残直ニ攻入川邊と云々、

一千手山曹田布施常珠寺末火年寺 天文八年創立、開山吸江善願和尚、大年道愛大禪定門^{日新公御養父}相模守忠幸公、

一阿多田布施高橋者嶋津相模守友久公領地也^{忠国公、嶋津相模守運}

久入道一瓢公^{友久公嫡男}後嗣無之、嶋津相模守忠良公^{忠庶子}伊作又四郎善久為養子伊作阿多田布施高橋四ヶ所全領之、

一仏坂

天文二年十二月廿四日、山田式部介少輔有親依有陰謀之聞得、伊作へ被召寄、此所ニ設伏兵被誅戮之御使池上伊豆・松元三七勤之、

二木但馬守打取之云々、子孫日州高岡ニ住す、

阿多郡 流一塩屋堀浦 山一金峯山也

田布施 式部左衛門入道宗貞ト有、

田布施主平田豊前守宗貞と旧記にあり、

一弘安年間より二階堂家世傳領之地なり、應永十二年、伊作久義受

元久公加勢攻之、翌年十二月攻落之為公領候、阿多・別府之両家

雖為加勢不叶退散す、平田純庸自記云、應永年間藤原久景と申人

為領地歟、長享年間、島津相模守友久一王忠幸之御領、天文年間

日新公御領、

一 高橋村 二階堂家代々傳領之、

應永之比、藤原久景領之歟、此時代當村一ヶ所為別立所ニ而候、或記ニ伊作六郎一節領之云々、

一 池邊城 元久公より當城被攻落市來郷江退去ス、應永十三年二月也、

一 牟禮ヶ城

右、二階堂家在城也、弘安二年三月廿五日合戰有之、

一 貝柄崎 當分阿多の内也、田布施下村通堂より下り田間通行過、

阿多之内田之中通路脇小キ堂有之、其邊唱貝柄崎、伊作某与阿多氏楯鉾之節、此處江阿多某寄來、太守元久公被遣兵卒、伊作家ニ加勢有之、然共伊作家敗軍也、應永廿四五年之比歟、阿多飛彈守手之軍兵力を合田布施打寄構於一棟下候、貝柄崎池通路取陳と云々、

祭米三斗五升

一 勝手大明神 社司二宮氏 (三國名ノ尾上) 在尾上村

祭米三斗五升

一 諏訪上下大明神 社司右同人

一 棟札 永祿十八年乙丑九月卅吉祥日、島津藤原朝臣日新・貴久公・

義久、延徳二年庚戌十二月廿四日、大檀主嶋津三郎左衛門忠幸・

嶋津相模守友久在、右同村信濃國長濱某先祖守下シ、初ハ一手ヶ

原と申所へ鎮座、川邊御手ニ入候以後、野久尾ニ鎮座を移さる、

川邊調伏之為ニ北向ニ鎮座ニ而候、其時御祈念候鞭社内ニ今猶存

ス、神躰木像四座、座之下ニ忠幸公の御名あり、

一金峯山藏主權現 座主金藏院、當社大和之金峯山を勧請ス、吉野

藏主

高百廿石

(三國名ノ觀音寺)
一金峯山妙音寺 金藏院 真一乘院末

開基日羅 中興開山秀範法印 相州友久忠幸代之人なり、文龜年 マ 二月廿二日寂

高拾六石

一 太平山 常珠寺 曹福昌寺末

一 稻荷大明神 在尾下村 諏訪社也

棟札 天文十年辛丑十二月廿六日、大檀那藤原朝臣忠良并貴久、
當地頭鎌田圖書介 ㊦ 郷、同再興天正十三年乙酉八月彼岸、大檀那
藤原朝臣義久當地頭鮫島土佐守宗豊、

一 玉手社 在高橋村

棟札 造立玉手宮一字、應永廿一年大檀那藤原久景、再興寛永十
四年三月吉日、當地頭鎌田左京、

一 諏訪社 右同所

棟札 奉造立社頭一字 長享二年戊申七月廿一日 大檀那嶋津相
模守藤原朝臣友久、當地頭圖書助中原朝臣貞易、代官貞長、同再
興元和九年癸亥七月十七日、地頭村田刑部經永、一同奉造立、大
檀那平朝臣重澄、天正五年丁丑七月十九日、

一 久玉社 在大野村

棟札 御宝殿一字 文明十八年、大檀那相州大守藤原朝臣 字不知 并
左衛門忠幸・伊集院大和守宿久、作事奉行河俣石見、

一 春日社 右同村

棟札 奉新造春日大明神棟嶋津日新 字不知、
當職鮫島入道双月藤

原宗増、永祿十年丁卯十二月八日、一位 ㊦ 大檀那藤原忠幸、表裏

二 ㊦ 再興之事、久安六年九月十八日、

一鎮守社 右同 棟札天正十八年十一月吉日 当地頭鯨島土佐入道、
一鎮守社南原 一棟札位心大檀那同貴久御息災延命 天文七年戊戌
十二月十四日、

一吉永城 在尾下村

但通路より三拾丁ほと有、右同断

一牟田城 在高橋通路より三拾丁程西ニ有、右同断、

常珠寺 日新公御事、当世俊安順應寺和尚之御参学なり、于時公
御年四拾貳歳、奉禰在家菩薩、此時分公ハ田布施御在城也、

一十一面勸音 一伊勢大神宮共ニ在紹聖寺境内、

右、堂社者加世田御発向之砌、依御誓願大神宮御勸請被遊、其内

觀音堂ハ其節御安置之像不相知候、御勝利ニ付右觀音為仏餉料、

阿多之内畠宅町御寄附候得共毀巧被召上候、

池邊村

一永泉庵 常珠寺末

大永七年七月廿三日之夜、日新公発田布施城欲抜伊作城行軍之節、
此寺の下に至時未戌之刻不計二十三夜の月金峯山北野之嶽に出、

其明輝宛如日^⑤三軍共、^⑥而往云々、

池邊城

一田布施 元久公発兵攻於田布施故、阿多・別府両家之兵二階堂氏

後詰たり、雖然不相叶、二階堂氏矢^⑦国家治人氏保誓願田布施三

嶽三州ニ跳せ時、獨身詣詠之、 日新

浅からぬ頼ミをかけて幾たひものほるみだけの神にあわれめ

下迄もにこりはあらし浅からぬ心の主の神しすまさは

金峯山権現 所祭安閑天皇

比山に在三ノ峯、権現ハ鎮座村中峯麓ニあり

勝手明神社^(守カ)籠寺社野是觀之当山ハ為移和州金峯山歟、和州金峯山
ハ在吉野郡、祭處安閑天皇なり、号龍王権現末社之籠寺勝手明神^(守カ)
あり

多夫施神社と云勝手大明神又火焼大明神 所祭靈愛命

三代実録日

太平山 常珠寺 高拾六石

應永十八年辛卯造立、開山仲翁和尚、天勇元機大禪定門相模守友
久御石塔立^子

一金峯山觀音寺金藏院 高百貳拾石

開山日羅、中興秀範法印、本尊日羅化弥勒菩薩、石像金峯山別当^(作カ)

職、

一田布施高橋ハ嶋津相模守友久^{忠国公}領地なり、島津相模守運久入^{長康公}

道一瓢公御嫡子友久公後嗣無之、島津相模守忠良公為養子領之、

忠良公当所ニ御在城ニ而貴久公御誕生之地也、

阿多郡

伊作^{浦二}温泉 入来院花熟里村十^(熟)

上古平姓平次郎良道領之、良道女肥後国菊地藤四郎経遠妻^不和領

之、其後菊地次郎遠秀領之、後又和田八郎親純領主ニ成、子孫傳

領之、永仁之比、彦三郎忠長^{伊作}以^{太守久經公}之為家号二男也^{公領之而代々傳領}

之

和田城^{在和田村田中門} 忠久公御代和田八郎藤原親純領之、其後

親純伊作庄本地頭ニ被移、

伊作城

永仁之比、自下野国忠長^{太守久經公}御在城以来、城代々伊作家御^{二男也}

在住、相模守忠良公御代、大永七年四月、太守忠兼公雖為御隱遁之地、嶋津八郎佐衛門尉実久依謀計、忠兼公再被任守護職鹿兒島還住有而後、実久同格計之、大永七年七月廿三日夜、日新公被責取返之候、其後日新公御在城 義久公 義弘公当所ニ而御誕生印有于今、

石牟禮妙見前

七月廿三日夜、日新公田布施より出馬伊作之節、此邊ニ而被掲旗候、

内城 此城通より不見得、西東之丸より奥也、

應永廿九年伊作大隅守久茂舍弟遠江守十忠依逆心舍兄久義被殺害矣、于時嫡男四郎左衛門尉勝久山門院在城、依為留主其子安靄丸範久雖為幼稚、伊作信濃守以下一族家臣守護之堅固ニ守当城、生長之後令襲亡代々家統、父勝久ハ自山門院直ニ肥州ニ出奔也、從是領と成、

東城 与倉村堺

大永七年七月廿三日夜、日新公・貴久公癸田布施被攻取之時ニ、伊地知將監守之、城兵等被屠殺候、伊作入来村之百姓伊地知氏を救ひ如鹿兒島落と云々、

西城

同時に攻之、翌朝卯刻落去矣、市来院之士卒所守也、日新公御姫お西（不知）之為被成当城御座候、

但多宝寺之向東之方

中原城

建武四年六月廿一日、大隅入道道意攻落之云々、城主可再考、
（彼）伊作堺より己午之方之山
（波平）續金峯山（なり）

大永七年丁亥六月十五日、虎寿丸公（後修理太夫 被襲実久兵自鹿兒島）

島凌諸所之艱難、柳ヶ谷（伊作谷）御出場にて（伊作ノ）御通、同（廟）之尾芭蕉（伊作谷）牛之川内御通此處へ御出有而伊作城ニ御參詣也、

但後年より場之本へ被召出付而、直ニ伊作城ニ登忠兼公ニ謁給ふ、

三日御滞留被攻（圍）、同十八日田布施ニ御帰城也、然共不合日新公之賢慮故ニ再赴鹿兒島府、其後又如元御帰城也、

神領高五拾石

一天汝八幡社 社司山之内氏

祭神大己貴命 例祭十月廿五日 当社ハ義久公・義弘公御生士之（ママ）神ニて御代々御尊崇有之候、在中原村、

祭米五斗式升五合

一諏訪大明神 社司右同人

上古西之城ニ鎮座、貴久公御代此ニ引移候、在和田村一石牟禮妙見 社司右同人 三社之内

在中之里村 例祭九月十九日

一觀音堂（大手之口 湯浦村） 海藏院格護 伊作犬安丸建立也、

高五拾九石

一如意山願成寺（就脱カ） 海藏院 真大乘院末

明應七年二月十五日、菊三郎公御年七歳ニ而為努学、日（行）山八世住持頼増法印代也、御年十五歳ニ而八月五日御下山也、

高式拾八石

一仏母山多宝寺 臨五山派 廣濟寺末

さい主四石御仏餉料

一青峰山天徳寺 多宝寺末

御仏餉料并守家為修覆料五年同宛被下候、

在浦名村 白尾村ニあり

一宝集山 興焉寺 多宝寺末

高三拾石

一清水山梅窓派西福寺 時衆宗相州藤沢山末

高三拾石餘

一瑞^(三國名ノ瑞龜)山善勝寺 曹伊集院妙圓寺末

一毘沙門堂 在多宝寺中ノ灰塚、宇都出口田中ニ少々森あり

宗山田式部少有親之靈、天文二年癸巳十二月廿四日、有親於伊作伏誅之後餘多靈異^(表)、里人祠を立禰多門天崇敬、今当如此候云々、

孝山忠公居士と号、

一首塚 在花^(熱)里村之内千疊松

右城責之戦死之敬之首塚也、今世市来塚と云、城より三拾丁程あり、

一船木大明神 在田尻村

一伊作城

日新公御在城之砌者、毎歳七月田布施高橋阿多より於御城踊有之、支度柏子等有故と云々、且又当城伊作家鼻祖忠長公築之、

一本丸 号石龜丸城 廣東西四十間南北三拾式間 高四方拾五間、

一山ノ城 廣東西廿間南北五十間 堀深四尋歟、外廻惣山也、

一東城 廣右同拾間右同式拾五間 高四方七尋之城有、

一東城 右同四十間右同拾八間 高東之方三拾尋西南南高三十尋

一同 右同断四拾式間右同式拾間東北五十尋西南四十尋

一同 右同断四十間右同廿五間右同東ノ方五拾尋西北拾五尋

一同 右同断六間右同式拾間右同北ノ方廿尋西北東拾五尋

一御かりや城 右同六拾八間東西卅間右同高サ北之方卅間東西北方

拾五尋

○西之城 右同断六拾間北南拾七間、高サ南六拾尋東西北堀内道有、

○同 右同断六拾間右同拾壹間 高サ北方拾五尋西方東拾六尋

右城之惣廻廿五丁卅間 城之惣高サ六拾尋 大本城なり、

右拾壹ヶ城者、貞間村之内也、

一海藏院本尊阿弥陀如来 大檀那久義公御安再、古仏焼失ニ而新仏^マなり

右、應永式拾五年寅八月十五日、久義公御建立也、当寺八代頼増法印代、明應七年戊午二月十五日 久逸^(表)御夫婦并梅窓院御息男

第三郎公御誘引谷山ニ而八九年之間、御勸学被遊候而、永正三年

寅八月五日御年十五下山ニ而候、日新柱当寺客殿中柱也、為御勸

学御在寺之砌、善勝下之川原へ水遊ニ御出被成候故、兩度住僧より使被差上候得共無御帰故、兩度目ニ御場ニ而候処、直ニ和尚菊

三郎公を此柱ニ乍憚も縛付申候へハ被仰断訳ニ依而、直ニ解免し

奉り候由申傳候、当寺開山廣範禪師下野国一呼上人之門弟ニ而、

初住紀州根来寺、

一日新公御幼少之時分、御寵愛被遊候菊を御齡七旬被為及候時分、

軒の末方御光屋ニ而御覽候歌に

おとろふる身そ恥かしき紅のはなはむかし^(三國名ノ菊)のいろと聞とも^(に)

一或時御出、終日御酒宴舞樂之時、一枝曇秀居士之事思召出、

戲を聞に付ても結をたとしことの葉ことに露けかりけり^(義)

右、兩首之御短冊政儀法印氏焼失なり、

一秀岳法印氏家久公御登山折節、山中雪降積けれハ^(三國名ノまき)

奥深くみきり^(三國名ノふり)ぬる杉村につもれる雪ははなにまきれる

右、御短冊今に在、

一 等持院末寺本尊虚空藏一軀長八寸、日新公御寄進、八幡祭 諏訪祭 地頭代勤来候、

一 智光院右同本尊不動明王木仏 八幡祭 座主氏勤来候、

一 千手院右同千手觀音長壹尺式寸 大神事溝法役勤来候、

一 常東院右同千手觀音海藏院勤来候、

右、等持・智光・千手三院久義公御建立と云々、

一 清水山梅窓院 西福寺

大永六丙戌年忠良公御建立、開山荒阿上人、

一 梅窓院為御菩提日新公本堂客殿晝替候節、御身心御運被遊候、

一 阿弥之三尊并法華經者卷寺号之額同公御寄進也、

一 瑞龜山善勝寺 慶安四辛卯光久公御再興、開山愚岳妙智和尚、文

明中久逸公御創立、本尊華嚴會釈迦、大檀那伊作川内守久逸主御

影并御牌御石塔有之、御灰塚与くら村釈迦堂山ニ有、明應九年庚申

十月十一日御戰死、德澤淨輝大居士と奉申、当寺初与倉村ニ有之

候処、寺家及衰微故当分之地へ被引移候、御影則釈迦牟尼也、

一 仏母山 多宝寺

本尊藥師并十一面觀音、開山益堂和尚或荊翁、應永年中大隅守

久義公御建立とも云、當時初ハ上湯之浦村之内西屋敷ニ有之候

処、明德元年午三月廿六日、是地へ被引移候、伊作家代々御菩提

所御牌并御石塔有、

一 法華三郎 一十六羅漢之絵一幅、日新公御寄進

一大般若經六百卷、勝久公御寄進 一皆水晶珠数一連并持 □梅窓

様より、

一 涅槃像三、表具絹但金襴綾錦 国分御上様より

一 雙式双但唐物天文十三年申辰十二月貴久公より御寄進、

一 八拾續拾六幅 日新公より一磬一口鈴并唐物、梅窓様より、

一 法般打敷式枚且綾絹、国分御上様より、

一 青峯山天德寺、下野守忠親菩提所也、開山実松玄昌和尚、建保元

年癸酉八月十二日建立、本尊千手觀音也、大檀那忠良公、大願主

一 瓢公、右本尊京都より御下候而御安置也、

一 法華經壹部 日新公御寄進

一 伊作下野守忠親御石塔御牌有之、当寺初ハ号東福寺、

一 宝（三國名）山興焉寺 旧名尊集庵、開山興焉和尚、忠隆公御牌忠幸公よ

り御安置被成候、衆僧数輩ニ而三日御供養被遊候而、宝集を為山

号、寺号を興焉と御改被成候由申傳候、本尊大面觀音、

一 小縁山西福寺 開山譜宅和尚、虚空藏菩薩、右和尚者薩州永吉郷

月野氏之人也、

一 幣傳庵 在和田村

上古真言宗、当分多宝寺末寺也、本尊釈迦如来木像、中興開山日

乘舜和尚常珠寺十二代目

一 古城与倉村之内川原屋敷之上ニ有、高橋家住職也、太刀打カ原和

田村、大永七年七月廿三日当城を責給ニ、日新公卒軍ニ而來給ふ

此処時当郷之上卒奉迎時、公御馬を立給ふと云々、

伊作天神法衆 慶長六年六月廿五日

たつきり（三國名）のほらぬ嶋ねかな （三國名）貴明公短冊

一 湯之浦越 此所忠兼公嶋津実久ニ御同意、忠良主と被及鉾楯、伊

集院日置両城を被攻落候と、忠良公此変を聞鹿兒島より早速被駆

付、田布施之城へ越給ふ時分此所を通り給ふ、

市來勢押寄來当郷花熟之内合戦、伊作方勝利、敵兵不殘亡と云

々、

谷山郡 一左之見忠光者河邊平次郎太夫良道五男、別府五郎忠時

谷山 ※注記 大永六年十二月十二日新公御拜領之地也、

一忠久公御代、谷山兵衛尉忠光領之、木工之助忠良・五郎資忠・法師覺信・平五郎左衛門入道隆信拜云者數代領之、其後道鑑公御退治被成候砌、谷山郡司太郎平忠高御陣二押寄合戦有之候、弟祐玄法師等從之、

一諸家大概云、谷山入道覺禪・同仏心杯貞久公ニ致御敵對候云々、
古城記云
曆應五年八月五日御免向、凶徒御退治被成候、貞利比度々合戦有之候、應永之初、元久公当郡郡司入道仏心御退治ニ而被入御手候、大永七年五月十二日、実久方加世田川邊鹿籠山田之軍兵当城を攻取候、

本城 立久公御代、島津用久籠当城奉敵光久公御攻被成候故、用久
應永廿四年、頼久拵籠之、久豊公被攻之、頼久陳喜入谷山乞降下
城、其後右谷三拾丁被収云々 在下福、天文八年六月十五日、貴久
公入守兵続云々 大口南堀、小城なり 西北、
上福云村 宇宿村 中村
一篠貫 波平 紫原 椿山 佐屋脇 宇宿村

天文八年三月十三日、貴久公御合戦御勝利也、右五ヶ所同合戦之節、公之陣城ニ被成候所也、

神前城 号和田城、玉林城大口北ニあり、東ハ海岸、南西
(堀カ)

河邊之兵谷山ヘ打越鹿兒島ヘ衆遣候時、鹿兒島方切勝式百人計打取候、城門迄追詰外曲輪破却いたすと云々、時二十月朔日之事也、年間不詳、天文四年之比歟、

祭米五斗七升五合

一正一位伊作知佐六所大権現 在和田、社司原口氏郷土なり、

イニ 祭神三座、熊野権現同躰、祭神三座伊弉冉尊、(泉津事解男)男命、速玉

男命

高三石 一川龍山持宝院常樂寺 大乘院末寺 上福元村、上古禪福昌寺末、

往古田(皇)龍寺山田村にあり、

高百石

一永谷山皇德寺

高拾六石 在下福元村

一補陀山(慈眼寺) 皇德寺末

一如意山 久豊公御牌立 皇德寺末

中興開山宗堂覺仁和尚、開キ年月不詳、

一山田村

天文之比、平田式部少輔領之、明應四年之比、依忠節自忠昌公吉田三河守孝清ヘ当村三拾丁給之、天正十六年戊子十一月、顯娃弥三郎久音太守義久公当地三拾町を給ふ、

皇德寺(皇)板銘

薩州谷山郡永谷山常住正平廿一丙午沽洗(姑カ)日、大工淨法、

一古年代記云、文禄式癸巳九月七日子ノ時久保逝す、屍を同月廿五日二福昌寺返屈、(送カ)閏九月四日辰ノ刻ニ茶毘有、追腹切者兩人、

一永谷山曹洞宗福昌寺末皇德寺 高百石、

貞治五年壬寅創立、開山無外圓照和尚、無外和尚ハ為王子之故、

以号皇德禪寺、久保公御牌立、

一補陀山慈照寺

中興開山代賢和尚福昌寺、当寺ヘ家久公御光儀ニ

橋落葉

橋姫の瀧の白糸くり懸て紅葉の錦波や織けん

右御歌短冊当寺釘切也、其外御供の面々歌あり、当寺本尊觀音

八百濟国沙門日羅作也、当寺ハ上古臨濟宗也、天文十一年、貴

久公より代賢和尚を当寺住職被仰付、自夫為曹洞宗、当寺ニ而

虎寿丸公光久公御詠歌

橋落葉

山水にちりて流れぬ紅葉はハしからみかくる橋の上哉

一 常樂寺 上古真言宗 開キ年月不詳、中興泉海法印日州、日州、飯肥之産人なり、此寺ハ上古伊作知佐宮別当ニ而、文禄年中三州攻破之時より暫破損と云々、

一 天文八年三月十三日、与実久紫原ニて合戦、鹿兒島方敗ス、

一 嶋津森 在上福元村通路筋由緒不詳、

一 茶臼ヶ城 大橋邊、下福元村本城ノ西ニあり、由緒不詳、

一 牧田屋

苦辛城より東ノ方ニ有、山田村之内苦辛城砦なるへし、庄屋

役所之上梅林と云所也、東方川流廻城壁、西北方尾筋續少し抵シ、

一 古城之跡 山田村之内同平 一 古城 邊平田上ニあり

一 右同 山田村長尾といふ所也、一 古壘 在、五ヶ別府之内

一 川口壘 在、五ヶ別府川口東郷上城切あり、城、古俗城ノ岡と云

一 城壁阻、北方深谷あり、南東方深谷川流、東方中村通路

一 陣跡 在中村之内苦辛城南三拾丁、西方

一 川源出 五ヶ別府村山中經山田中村、上福元至松原通海、

一 巢松以安傳集云、参没于谷山慈昭寺、

一 古木固巖連古今、地靈水潔ノ碧雲深シ不離当ル處、補陀尊慈眼神

通觀世音、

一 荅慈昭高峯上人新年律傳之約詢カ

一 春錄濟氣靄然寄 黄鳥綿蠻嚙柳枝

一 境似補陀音樂處 寺如天竺曉鐘時

一 仙凡不隔清遊好 風月無辺吟味宜

一 此景從來誰寫得 八州都督老坡詩

牛落 郡元村

觀應之比、道鑑公谷山郡司太郎平忠高為御退治、谷山郷へ御出陣之時節、祐玄法印經閑路蜜ニ此所へ出張陣營を構而、對和泉三郎兵衛尉忠直合戦在之候處也、

一 青や松原 在郡元村坂邊、右合戦の時忠直士卒

一 大河内山 此所屯、淨光明寺末、

一 矢上没落之時、應永四年之比者道鑑公七拾三才ニ被成御座、

鹿兒島郡 上古作康国什磨、今為鹿兒島

鹿兒嶋 天文四年嶋津実久鹿兒島江乱入致放火故、十月十日、

一 川邊平次郎良道六男鹿兒島久重・三郎忠重領之、家譜あり、阿多

平次郎忠景養子領之、其子女子其子、

○ 道鑑公当所之凶徒を退治被遊、氏久公へ被遣候故、氏久公御代よ

り御居城之地ニ被成候、曆應四年矢上没落以後御入部之様申説雖

在之難用、其己前より被成御座候と相見得候、按曆應四年之比、

氏久公十四才ニ而被遊御座候へハ、矢上没落已後御入部之説実歟、

觀應三年之比ハ氏久公廿三才なれハ其比より被成御座候歟、

一 東福寺城 氏久公御自身被遊御責候、

○ 氏久公被遊御在城候、○ 肝付八郎兼重・中村彈正忠秀純揃籠之、

曆應三年八月十二日より攻之、翌年四月廿六日攻落之候、貞久公

應永廿年巳十二月七日、久豊公軍本城落去之事を吉田而、翌日直

ニ歸師彼地、從五拾騎而入当城守之給ふ、軍兵諸所より馳集、

一 尾頭小城濱崎カ城とも ○ 同四年同月廿八日落城ニ而候、弥占三

郎清種目安 道鑑公御一見狀ニ詳也、寄手大将嶋津三郎左衛門尉

師忠と云々、右同、

一 毘沙門堂

應永廿年本城へ伊集院頼久攻入候時、此處ニ而戦在、

一 唐湊

当分下町若宮々真菰地の所と云り、又武村ニも名所の都と見得たり、

一本城

○嘉慶之比、元久公志布志内城より此城ニ移玉ふ、

○應永廿年癸巳十二月七日之夜、伊集院頼久窺攻落候時ニ、久豊公

菱刈表御馬免之留主也、北原弥二郎・同太郎三郎・佐多三郎九郎

忠豊已下防禦之術を失ひ戦死なり、頼久原良ニ退對す、久豊公聞

此変、從蒲生美濃守・同三郎太郎・吉田若狭守以下廿三騎難兵と

も五拾計之兵、吉田より引返給ひ板尾坂より入、詣諏訪大明神、

夫より清水を東福寺城ニ入給ふ、城裏悉焦土と成ル、青木前之川

惣門口、

一 四郎ヶ坂

應永廿年巳十二月七日、伊集院頼久攻落本城、退陣原良、頼久余

党谷山兵屯此所、仍川内之軍勢押懸及合戦、凶徒敗北、味方乘勝

殘黨加頼久カ原良之陣退散此所なり、

一 上山城

坂元門万平門ニあり 在草牟田村
号鶴丸山

○觀應之比、南方之凶徒按鮫島彦四郎入道蓮堂カ此地を取んとて、
党なるへし、

谷峯城ニ打集候、依之道鑑公自身上山に馳向給ふ由、比志嶋家文

書に見へたり、氏久公御代、薩州御家へ交名帳ニ上山領主と有之

候、城主の事歟、旧記云、天正十九年辛卯、鹿兒島上野山城取鐵

初八月六日己亥滿政者河田駿河入道なり、龍伯公御代ニあり、○

旧記云、慶長七年壬寅八月五日、少將様鹿兒島御出馬御上洛なり、
(旧カ)

日記ニ云、鹿兒島樓門立候事、慶長十七年九月十七日ニ柱立被成

候事、

○右(旧カ)日記ニ大坂騒動ニ而同十九年十一月十七日、家久公鹿兒嶋を

御打立被成候而、豊後国迄御登被成候得共、鎮り候故同廿年の正

月御帰国被成候事、左候而又々大坂乱争ニ而、同年五月六日ニ鹿

兒島を御打立被成候處、大坂落城候旨相聞得候而、根占衆七人京

泊りより帰陣候事、五月廿九日、上様ハ御上洛被成候而、七月廿

九日御帰国候事、

本御内 大龍寺境内也 発

坂元村水口門、天正十五年二月十五日、

義久公、天文十九年庚戌十二月十九日貴久公伊集院より被遊御座

候、文禄四年初冬、義久公此地を忠恒公ニ御ゆつり被成候、公ハ

高麗国御渡海御留主なり、慶長七 years 上山ニ御城を移され候以後、

本御内世俗申習し候、(そ門カ)

催馬棗城

坂元村りう(そ門カ)、有馬將軍(自)尾四代ノ孫右衛門尉森澄
為鹿兒郡司号矢上、二代時純・頼純・真純・義純・高

純と、
系有

○矢上左衛門五郎高純楯籠之振逆意、依之歷應四年四月朔日より

十六日迄ニ攻落之候、追手大將嶋津七郎左衛門尉資忠、搦手大將

島津三郎左衛門資久也、大將貞久公、

○又康永貳年九月十二日より責之、十一月七日之夜攻落、寄手比志
嶋彦一丸範牛也、預道鑑公之御(感カ)自安、道鑑公御一見狀ニ詳なり、

城主不相知候、

小山田村

久豊公より吉田若狭守清正賜之、領知也、

犬迫村

勝岡城

比志嶋義祐居城なり、

野本 武村之内敷、

原良壘

正平年間南朝、
年号 宮方大将畠山治部太輔国長兩所に陣ス、

イニ畠山直顯と有

氏久公御對陣、毎日攻合有之候、御内山田弥九郎敵方多田七郎と名譽之太刀打有之候、應永廿年十二月七日夜、伊集院頼久本城を攻落し引退、此地陣取候、同十二日合戦あり、久豊公囲攻之候、頼久已ニ自害ニ相究り候砌、吉田若狭守・蒲生美濃守申有ニ依て頼久被免罪帰陣と云々、

一 火立番所

一 御かりや

右 ㊦、犬迫村カ永吉村 在横井

一 小野村

原良合戦之時、於此地大合戦在之、頼久方日置肥前守・町田佐渡守直久以下数人戦死、其時四郎カ坂ニ而も攻合有之、大永七年丁亥五月十七日、貴久公鹿兒島を落給ふ時、此地ニ而御支度あり、夫よりい十院竹の山・鬢石・柳カ谷・㊦貫・日添・尾牟_㊦・河内等之諸所を経て田布施に越續

一 犬迫村

太守勝久公より川田式部少義元八代 拜領之拾五丁之内、同飛彈守

義秀九代 同公拜領、天文六年の春二月日、日新公此地ニ陣し玉ふ、

実久カ軍向之時、藤田某・北兼約彼坂を成す故、かこしま勢敗軍、小野くり山之坂下ニ而悉打取之候、日新公之兵得勝利手鞍を打而喜舞ふ、其後、其地を鞍之笛と云々、永禄式年己未十二月廿三日、太守貴久公㊦渋谷加賀守重顯十二世之忠志賜当村、

一 千手堂 坂元村

應永廿二年乙未、上総介久世・伊作勝久和睦を太守久豊公ニ受、

勝久謁鹿兒村、其後太守川邊ニ御越、同十二月久世謁鹿兒府千手堂坊_㊦越年、久豊公御對面之後、発人数囲之、然而川邊居城を渡さハ囲を解んとなり、久世不諾、雖然福昌寺大田和尚囑ニ而河邊ニ使を越、㊦事天辰玄徳庵・其子阿波介己下評儀して、返詞ニ御息犬太郎殿を守立、城を警固シ長久之計を被成、然上者久世の死生に不構と有ニ仍而、同十二月廿七日籠千手堂、翌廿三年丙申正月十三日久世切腹_{才也}、㊦中太郎・本田伊賀守・小田原彈正・天辰助次郎・黒田伊駒・金田以下の男子拾壹人殉死す、

一 御かりや 吉野村の内在大礪

田浦 尾頸小城下なり、

天文四年乙未十月十日、勝久公没落の時、此地より出船、帖佐ニ被趣候、

一 畠 在上_㊦村
或肥田共

久豊公御代、上やしきのものとも、い十院ニ合心、此處ニ要害を構と云々、此所に近衛信尹輔春日大明神草創、詠和歌云々、長場山 福昌寺上之山を云、

田上村 觀應之比、凶徒等大勢打出候間、谷峯ニさし置候子共以下_{本ノマ}連合戦とあり、

谷峯城 右同斷、

一 久富貴山大明神 花カ

貴久公勸請華尾權現此地被遊御建立と云々、

一 遠見番所 在草牟田村

一 右同 在犬迫村横井

宗廟神領高三拾石祭米式石八斗壹升五合

一正一位諏訪大明神 神主本田下總守、別当安養院 祭事七月廿八日

御勸請年間或記ニ正平の比とあり、永享十年戊午五月七日旧記云、
諏訪祭祀之法（様式） 太守陸奥守貴久公御代、頭殿居頭始る、頭殿ハ

勅使の儀なり、居頭ハ上使ニ而、右頭社役川上・伊集院・新納・

町田・伊地知・本田・鎌田・長野公家宅年両家ツ、勤之、七月三

十日之間、頭屋儀式勅使会釈之儀也、廿七日八日兩日の神事ハ、

信州ニ而御射山祭の法なり、於当国頭屋（府カ）調神供屋杯茅簍を以か

りやを作ル事、信州之本やニ符合す、当社神事の日、天下為祈禱、

先頭殿御幣、次ニ為祈禱居頭御幣、次ニ三州為祈禱貴久公御幣と

云々 鹿兒嶋諏訪宝樂歳暮梅、 義久公
慶長七年十二月吉日

春をまたてひらけ初たる梅カ香に人の心のなひかぬもなし、

祭米六石

一正一位稻荷大明神 祭礼十一月三日、祭司諏訪神主
座主宝持院

祭米九石八斗七升神領主米三拾石祭司本田下總守、別当文珠院

一祇園天王宮 祭六月十五日

神領高拾石

一春日大明神 社人井上左膳 座主西寿院

神領高拾五石 祭九月九日

一若宮八幡宮 大宮司弁官新左衛門 祭司本田氏、

右を五社と云、貴賤連袖參詣す

高五拾石

一小城権現 座主善聚院

祭米八斗七升五合 神領寺式拾石 座主普賢院 祭禮七月廿六日

一諏訪大明神

但福ヶ迫

後迫神領高拾五石

一愛宕社 座主勝蔵院 寺高拾五石式斗八升四合 祭主三石神主
荒神社本田氏

濱崎ヶ城祭主七斗四升七合式才 般若院祭米壹斗七升五合

一飯綱宮 般若院格護 一蛭児宮 般若院格護

濱崎之城右同壹石 塩土傳日撰津国武庫郡

一多賀大明神 大宮司鷲津喜兵衛 西宮夷神社ニして社下蛭児之浦

祭米五斗式升五合祭礼九月廿三日 浦者蓋其船之泊処なり、

一荒田八幡宮 祠官中馬典膳
座主福蔵院

郡元村祭米三斗五升祭礼九月九日 神領高式拾石大磯松ヶ平

一條宮 座主延寿院

新築地 草牟田村祭主三斗五升、七月十六日祭り
一天神社 龍洞院

一池之弁才天 座主
文珠院

萩原祭主五斗式升五合 祭礼八月廿五日 神主本田
下總守

一天神社 淨光明寺格護 祭司本田氏

小野村神領高拾五石式斗四升八合九才 宝持院境内

一聖之宮 大宮司藤田清左衛門 一稻荷本地堂

野元寺高拾五石式斗八合三勺 葉王寺格護内之丸 一千手觀音堂 千手院
一葉師如來 新照院 格護

一阿弥陀來西寿院 格護日新公御建立 一觀音堂上山寺格護

一稻荷大明神 在（所）

家久公於朝鮮国戰死ノ神狐を被崇、此地祭例十一月朔日、

一川上城

川上昌久伏誅之後、勝久公より御勢を被向被攻取之候、然其後宝

井家臣等能相付ゆへ城不能拔、

一鹿兒島太夫康友 又曰舎人・嫡子康忠 鹿兒島三郎と号 二男友家宮太
右馬允 五代法名心知

築地神領高三拾石、祭主四斗三升七合五勺

鹿兒島右馬四郎 一神明宮 別当抱真院所
平野氏祖、人井上右京

一冷水觀音堂 光明寺格護

一田上村 馬頭觀音堂 一武村 地神堂 松崎氏格護

高八百八拾石餘

一經田山宝成就寺 大乘院

京都醍醐山宝持院末寺 薩隅日真言宗小野方門首厚地山花尾宮、

別当職太守陸奥守貴久公 天文年中御草創、伊集院宝庄巖寺被為

移此地、号大乘院矣、開祖俊盛法印、

一護国寺 大樂院 安養院 大乘院末

最初寺号東福寺、中大樂寺 後貞和年間改大樂寺、号宛養院、開

山名并開基年月不詳、中興駿河和尚、

一神護山觀音寺 宝持院 大乘院末

天正四年六月廿九日、近衛殿下向当国、定旅宿於当寺、

一医王山多樂寺 宝珠院 大乘院末、

一抱負院右同 一太岳山(中)護寺善聚院右同、

一愛宕山宝幢寺勝軍院 大乘院末 一護国院右同

一延(中)院右同

新城山大明寺 飯野大戸 諏訪座主

一文珠院右同 一葉師院右同 一神照山普賢院 一柿本寺右同

一福藏院 一西寿院 一智恵光院

一善行院 一潮音寺 一永福寺

一松本寺 一千手院 一千臺山真乘院大興寺

永正二年六月四日 忠治公御建立、開山法印頼政、

一養泉山無量寺 不斷光院

京都智恩院之末寺、薩隅日淨土鎮西流門首

一本長山正建寺 京都本能寺、摂州尼ヶ崎本興寺末寺、
法華宗

一瑞雲山大龍寺 京都本福寺末寺 臨濟宗五山派

一護摩所玉龍山福昌寺 能州總持寺末寺、三ヶ国宗洞門首

天文十五年五月、成勅願寺額到來、

一深固院 初吉利郷在岩井内村、文明三年辛卯被移此地、

時德三年草創、開山石屋和尚、

一惠燈院 一華舜軒 一月香院

右、三ヶ寺福昌寺三塔司

一松原山南林寺 南林寺塔頭 一源舜庵 一貴照山妙谷寺

一太平山興国寺 天正十一年十一月十九日地引有

一隆盛院 山号西峯山

一太平山大德寺 一宝藏山笑岳寺 伊集院梅岳寺

一重宝山上山寺 一醫王山藥王寺

神領高三拾石祭主八斗七升五合

一神明宮 座主抱真院 社人井上左膳

宝永三年戊 古貴公御草創

一菅宮

明應六年四月廿一日、崇大覺寺義照大僧正奉号菅宮、(中)為菩薩建

立大興寺、

一槽木川 源出薩州吉田、

一瑞山馬頭觀音 在大迫村、

此所每年享保之比迄三月三日、騎馬參詣多、帰路於柿本寺馬場馬

乘有之、然処喧嘩有之、及刃傷被禁候、

一葉師堂 旧跡当世俗称高藥師、

右、只今東郷長左衛門屋敷東北角、則其跡なり、

一下田村

吉田氏清二男下田頼清自應永十八年之比領之、甥吉田若狹守清正依忠節、應永十八年比、自久豊公為馬飼所六町を拝領、為名代置庶子之惣領を以下田為名宗、

祠場之宗敷

一柴立松

在郡元村之内午落、每祭九月九日、一條之宮祭禮之節、神輿を此樹下に留て神宮奏神樂、

一熊野三所權現

在內ノ丸 一紫原文八己亥三月十三日、貴久公より島津実久之兵と合戦、実久方敗軍多なり

一津口番所

安永五年三月建立

一植力

在武村

傳称往古肝付方軍勢出、於当所合戦、死亡之首塚と云々、

一荒田村

地頭伊地知民部少輔重政、寛政丙子三月大吉日、

一虚空藏堂

在柿本寺内

傳称日新公御守本尊ニ而、加世田柿本寺ニ安置有之候处、右寺当所ニ被引移候ニ付、是又同時ニ被引移候、

一出水崎

柿本寺上之山を云、

一此所嶋津山城守忠朝在住之所と云々、

一山王社

在西田村

一川上壘

川上昌久伏誅之後、勝久公より被向勢兵被為責候、然共、後室并

一武村

應永十年癸未十一月廿九日、從太守元久公入来院彈正少弼

一重頼賜之、

一犬迫村 上古満家五郎左衛門尉義祐、比志嶋太郎祐範

一領之、

二男なり、

一八房大明神 祭所二座 八幡太郎義家、志田三郎

右、満家五郎左衛門義祐建立之、年月不詳、

一比志嶋城

在比志嶋村、忠宗公御代満家五郎義祐とあり、

御初ハ伊地知縫段介季重也、比志嶋家代々在城之、建武四年十月

十八日夜寅刻、凶徒矢上左衛門五郎高純催馬楽城主已下到来、当

城防戦、移刻城主彦太郎範平城主追平退凶徒、於当所堅固なり、

右、合戦ニ比志嶋親北村彦三郎清範手負、六郎入道打死、六郎

三郎家貞・五郎入道以下手負、

一日吉山社 当村宗廟

天文八月己亥三月、時正比志嶋河内守義弘代め建立之なり、家臣

坂元少左衛門江州志賀郡日吉社(替)下シ、勸請此地、

一小鷹大明神

当社ハ天文十四、隅州岩(割)城合戦死亡之家臣藤崎・

横山・長山・坂元・中島・坂口・常波(澤)山下・竹之下等之靈を崇

メ、河内守義弘建立之、右人数皆社内ニ勧請す、

一天正五年十二月十八日、奉 義久公命給日州表押轉旧領満家院、

賜日州曾井采地三百五拾丁轉彼地、此時家臣上下七百餘人携家臣

供奉す、

旧記云、田所檢非遣使兼貞、冷泉院平康年中兼貞大隅 薩摩州

執行、安和元年戊辰四月七日、薩摩国守護給神食、村上天皇勅

幕紋給、天曆三年上伊敷より肝付郡串良・諸縣郡求仁郷此両国

御在城也、已下略ス、

一伴掾御館

妙谷寺上ノ山也、在村下伊敷村此所ニ築

肝付家鼻祖伴掾大監兼行居于是(旧名、神食)

一小野村

應永十七年之比、大守元久公より為忠分、川田伊豫守義尹ニ賜此

地矣、

鹿兒島郡

吉田

一從古來吉田氏領之、天正年間なり、

一元龜元年之比より嶋津左衛門尉歳久領之、天正八年去而移祁答院、

一古來雖為隅州始羅郡之内郷、天正十五年隸于薩州鹿兒島郡、

吉田城 涼松坂より町ノ方へ通左屯丁計ニあり、

永正之比、吉田次郎四郎^①清守城、同十四年二月十二日、忠隆公

当郷へ御免向被攻城、同十四日庚申同戌刻乞降落城、同十七日内城

にて御祝也、^②清山門院へ退去ス、嶋津善左衛門政徳人数を集、

野田阿久根之堺松原ニ而生害ス、于今崇若宮、

宮之浦

天文年間、与蒲生守護方と合戦あり、山田藏人有徳勳軍功、^③

飯山

文明十七年四月十四日、吉田衆と於此所廻合有之、味方得利と宇

々、

一大隅国正八幡宮神官を又執当權政所神事、奉行甚七助清領分也、

社所神河村・楠原別府・^{九鉢堂カ}等也、

天正三年正月十九日、行^④執

印門賣^⑤而吉田院讓源為重三位大藏行忠之^⑥却也、同年二月廿五

日、国司在免判神領之始也、

御崇廟祭主三斗五升

一薩陲王子権 所祭老座^⑦王太子 社司中野駿河、

祭主六斗五升高拾六石式斗五升六合三勺九才 但吉田郷士へ附候事、

一正一位八幡宮 所祭三座相殿崇吉田美作守

永祿八年、吉田若宮裁神久^⑧任正一位、檀那貴久公と古記ニ有、

一如意山東光寺 宝勝院 大乘院末寺

開山越前房法橋琳と云、^⑨

高拾石

一仏智山津友寺 福昌寺末

應永二十年草創、開山竹居和尚、往古号安寧山了心寺、吉田氏代

々菩提所也、

一清秀山興記寺 臨濟宗大慈寺末

一權政所御供所 ^⑩權執印長太夫清道^⑪助清子、承久式年四月廿七

日、凡八拾四歳、源為重者母方之祖父なり、故清道ニ讓吉田院、

為重者鎮西八郎為朝之男也、領分之諸所神河村国分寺、弘津寺、

楠原別府、九鉢堂分四^⑫等也、^⑬

一吉田院司御供所 檢校吉清文明式年二月^⑭、清道之讀狀、建久

八年七月各大將家賜安堵之御下知、同九年八月賜社家之御下文、

一吉田太郎御供所、檢校守清承久元年八月廿八日受吉清^⑮、同

二年十一月賜安堵之御下文、延應元年六月廿日死、六拾壹歳、

一清弘曆仁元年六月得守清之讓、建長五年七月賜安堵之御下文、

建治三年八月二日死、七十、

一公文執^⑯吉田文次郎清高^⑰正和二年二月廿三日、一公文執当吉田彦次

郎清秋康永二・五月十五日、一公文執当吉田次郎太夫清持^⑱康安元

五拾、一氏清^⑲康曆元 三月十五日、一清元^⑳正長元・九・十壹死、

九歳、一吉田若狹守清正^㉑應永廿・七・六日死、一吉田次郎四郎兼清二^㉒享徳

五月十五日死、一吉田尾張守泰清^㉓永正二年十一月七日死、一吉田

五十五歳、一吉田守孝清^㉔明應九・十月十六日死、一吉田若狹守位清^㉕大永七・十

但永正十四年二月十五日吉田没落退去、^㉖薩州野田郷なり、道号、心月、法名了安、

一古城 号爲ノ巢城、由緒不詳、上古矢上氏可爲格護歟、
在宮ノ浦
一本城 吉田家元祖初而築之、在城と云々、

伊佐郡

大口 旧名牛山 大口・山野・羽月三ヶ所
惣名牛屎之院云、

一牛屎薩摩守信基依保元之軍忠、牛屎・祁答院兩院を領す、其四男
四郎元衡於下向薩摩国、右元衡ハ元光祖父之弟也、

一文治三年五月三日、太平太郎大泰宿禰元光へ自頼朝公、牛屎院可
爲領知之賜御教書安堵す、

一菱刈氏世々傳領之、永祿之比より球摩相良氏押領也、

大口城

○永祿十年比、禰此城に楯籠、肥後国求摩城主相良氏ニ引合對馬越
の城挑戰有、

○永祿十年十二月廿九日、市山之守兵当城ニ働、西原川原にて攻合
利を失、其後凶徒市山城ニ襲来事依有、新納忠元を合居守也、

但其先、貴久公奉命市来備後守家利守市山城、右合戦ニ同人戦死、
○同十一年正月廿日、城兵黨^(黨)ニ出張す、時ニ太守馬越城に御座候
処、義久公・忠平公馳向玉ふ、貴久公制し玉へとも若武者等、先

を争て揉合、一戦に利を失ひて引返す、川上左近將監久明深手を
負、羽佐之瀬にて忠平公御粉骨被遊候、伊集院右衛門久治戦功拔
群也、同十二年伊東力軍桶比良引取由、問者より告来る故、俄以
思召八月十八日より、太守大軍を以囲攻玉ふ、九月十日降を乞て、
同十四日城を相渡、十八日太守父子城ニ入御、其後新納武藏守忠
元ニ地頭を給、

但右合戦の条、九月十日相良東帶刀・深水太良左衛門爲質、守

護方より鎌田刑部左衛門^{政年}・本田・新納爲質、同十四日、
大口の敵向求摩退散、同十八日戌子己之時、貴久公・義久公
城登り、鎌田政年唱凱歌と云々、

文祿年中一國一城ニ被仰渡候時分、大口を御居城ニ被遊、町田出
羽守久倍を城代ニ被召置候、

一山之口・青木・小木原・平和泉・多々川・木之内・牛尾、
右諸所邊路番有、

平泉村

永祿の比ハ一外城にて候、同十年丁卯十一月廿三日、菱刈一族大
口畧ニ引退候、後使嶋津義虎合守之、

戸神ヶ尾 ○稻荷山

永祿十一年五月六日、忠元・兼寛兼而又七郎家久ニ相計、戸神尾
稻荷山西所に兵を伏たる、伏草大將大野駿河守・宮原筑前守也、
家久自身大口城下ニ馳向敵を偽引然とも不出、猶放鉄砲而欺凶徒
之^(中)頻也、於是、凶徒如雲霞出^(曾)追来、家久欣然として馳走而
指戸尾而退、凶徒乘勝進む、家久戸神ヶ尾之西ニ而馬上之組打無
比類働有之候、忠元・兼寛指揮軍兵、從四面伏兵ヲ起し敵百三十
六人打取也、栗野衆前田豊前守魁諸兵有軍功、凶徒終ニ敗走ス、
至是大口の賊徒失勢、此時者家久平和泉ニ在城有之、山野城ハ是
より先球摩方へ被遣候、

○小河内 ○此所肥後国通路有關所、

崇廟祭も五斗式升五合

一八幡宇佐社、祭所三座八幡比咩神、大帶姫、社司^(二之宮氏カ)伊^(子)、建久

五年申寅八月、相良寺妙勸請、当社郡山ニ爲当家の守護神自家系
図に有、

一小苗代 葉師堂 永福寺格護
高廿六石

一牛王山密教院 郡山寺 大乘院末、

一智額山成就寺 福昌寺末
高拾石

一大山 口称院 専念寺 時衆宗^{三國名}州藤沢山末、
^{大来山}

一勝久公御代、菱刈大和守重副^{重時}当代再領、此地自家系図相模守
重^{重時}譜中、

一太守忠昌公使一族鳴津出羽守忠明等大口之城壓求摩相良氏^{感力}軍陣
大口^欲拔候、忠明運籌策^{感力}敵陳故、相良氏退散大口矣、太守公^{感力}
し其功賜大口城下三百五拾丁村忠明、而傍勵軍功矣、重州有含恨、
享祿三年重州胥謀相良氏攻大口城事甚急也、忠明失防禦之術、同
七月廿七日、忠明自殺、一族已下悉戰死而城又陷矣、重州入大口
於手裏、相良氏又会兵焉、先是享祿二年己丑九月三日、欲攻大口
師牛屎院大塩屋殺忠明之嫡子次郎四郎忠征矣、重州之武威振遠近
故、太守貴久公欲当家平治運謀者ハ多年也、

一西原八幡社

当杜ハ崇大嶋出羽守忠明靈、太守貴久公建立也、

元永譜中

一寿永元年比、就京都兵乱為陣内守護当家之從臣赤田之一族以牛山
構城郭籠城の内、相良家と菱刈家合兵而責牛山の城、依之為院内
両家領所、

元年ノ譜中

一保元三年八月十三日、薩摩四郎元衡初下向、薩摩国牛屎院、牛糞
院ハ薩摩国伊佐郡の内牛山・羽月・山野・平和泉・入山己上五ヶ
所之惣名也、

一大田村、永和三年己十月廿八日旧記ニ太田^中弥元清と有、領当村

歟、

一青木村右同断、青木為政元生之丞領也

指宿氏系中

一平次郎太夫良道薩摩国伊佐郡本地頭と有、

一花北村 嘉曆比、華北左衛門太夫入道妙道^{牛屎院}牛屎院領之、

一大口壘

菱刈家世の傳領也、永祿十年丁卯十一月廿三日、馬越壘落去す、
依之内廿四日の夜、諸所の^{本城}湯之尾・羽月・市山・青木^{兵大}
口壘ニ入、菱刈大膳亮隆秋失勢之間從球摩^{肥後}警固の兵三百余来
て此壘を守、同廿五日、兵諸方に^{本城}曾木^{分遣}分遣す也、平泉^{鳴津薩}
虎所・市山^{市来}伊集院・田布施、壘又防禦之備嚴重也、然処
十二月廿九日、市山兵当壘に近き窺其虚突之处、守兵見之鳴刀鎗
来者千余人、公の兵市来備後守・平田加賀守・伊集院刑部少輔在
西原川涯、雖防戰敵難凌三人共ニ戰死、依之漸公之兵得入市山壘、
一飛田瀬^{河川内}河上也

永祿十一年戊辰正月廿日、義久公・忠平公從馬越田壘兵二百を卒
し発向、欲討此地の凶徒、設伏兵于此時、凶徒進来者数百人其中
將師六人為先鋒、称名白別府安藝守・岩城六郎兵衛尉・内田傳右
衛門尉、外三人不云、其姓名於爰忠平公も再称名奮戦し玉ふ、川
上左近將監久朗於飛田瀬与別府安藝守戰、則公司を以て安藝守を
射殺、于時久朗數ヶ所負矢疵命を捨んとす、陪臣西郷新八見久朗
の向死、直衝入凶徒^死死、我軍終ニ失勢故、公自殿ヲ玉、羽佐瀬
敵猶慕跡而襲来、此時公之兵大潰殆危急也、遠矢下総守・財部傳
内左衛門尉・入来院筑後守等有戰功、手負奮戦す、公手自適左右
敵を悉く殺討す、時ニ嶋津左衛門督歳久・伊集院右衛門太夫尉久

治聞此危急、卒兵駟來挑戰の間、從于阿弥陀堂之経路、歩卒數十

突出合降、中野仲左衛門・下嶋吉左衛門孫命・伊東右衛門尉・有

川雅樂助等甲諸兵故ニ、忠平公漸退入曾木壘、凶徒又悉退散ス、

一小苗代原 永禄十一年戊辰二月廿二日、嶋津又五郎忠長肝付彈正

兼寛自馬越越到市山議して於陷大口壘策新納忠元歸之時、忠元送

其両將而至小苗代原、敵別之處歩卒馳窺大口壘、新彼宮中之凶徒

數百競先出来ル、忠元・兼寛、忠元指揮而進士卒、新納右衛門尉

被疵、鎌田尾張守政年会於凶徒酋長牧野氏見之、則田実右京亮入凶

徒之中得其首、其後欲入市山城、雖敵強而忠元唾掌して臨而至自

坂、八代肥後の勇士的場五藤、

伊佐郡

山野

一天正の比、島津義虎領之、

一永和三年己十月廿八日の比ニ、山野左衛門尉元詮と云ハ当領主也、

一熊野三社權現宮 社司成尾氏

一東光山 万徳寺 大乘院末 一福寿山芳有軒大口成就寺末寺

一山野城 往古山野牛屎家氏事、貞久公御代山野孫次郎

一登城 荒平上場 此三ヶ所 邊路番有、

伊佐郡

羽月 菱刈氏世々領之、

一忠宗公御代 羽月右衛門入道守之、道鑑公御代 羽月太郎元鎮守

之、此代落城す、

一永和三年己十月廿八日記羽月石見守元豊と云有、

羽月城

永禄十年御手ニ入薩摩義虎ニ預玉ふ、翌年義虎返ス、依之新納武

藏守忠元肝付彈正忠兼寛ニ在城被仰付、度々對大口城攻合有之候、

其後大口落城ニ而、此地をは大口ニ被召附と云々、

宗廟祭主三斗五升

一熊野三社權現 社司長谷川氏、祭神三座伊弉門尊 事解男神コトサカヲ

一高岩石五斗 真大乘院末 高岩石 連 勇神

一熊野山若王寺 一世尊山大聖寺 禪福昌寺末

一忠昌公御代 菱刈太兵衛佐重時当代再賜此地ノ男、牛屎家系図ニ

一潤邊之家ハ平家小松内大臣重盛の末子土佐守宗実子孫也、宗実の

君達武人有之、母ハ源三位頼政の嫡子兄弟蒙頼朝公之恩免為遠流

下向薩摩国ニ居住、于羽月十丁、山野五町、平泉五丁為領所知行

之、其子孫居号牛屎、其庶流号潤邊、延元之比、牛屎左衛門尉忠

濟同末子出家三位房臺澄或牛屎越前權守・同刑部太輔其外牛屎正

一正忠・文濟・正文合皆可為宗実之子孫歟、

堂崎村 永禄十一年戊辰五月、山野・羽月・平和泉ノ内今大口凶徒以

伏兵欲彼軍打運策於和睦求摩許於山野相良氏、同八月大口之凶徒

變前約築一陣於堂崎、伊東入道も亦合心陣構於桶比良飯野飯野為後結

故、貴久公欲打彼黨徒、然共霖雨頻也、仍其策不成候事暫退去、

待時節発足為臨兵營有、催場鞍者時、大口之凶徒窺其使川上丹波

守城内某を殺害、徒馬越の當聞之、則旗下之勇士四五十騎馳統、

進退於其徒黨大膳房戰死す、其後相良氏・菱刈氏次感應寺野田清

和再三未果、翌年己子正月廿日、應求決和睦之謀、然三月十八日

蒲地越中守往平和泉の口大口城之士深水頼兼變前約屠殺、蒲地の

從者十七人爾來彼堺往還不自由故、肝付彈正忠・新納刑部太輔忠

元入守羽月壘云々、

一園田 天正十五年秀吉公初征和睦之後、五月十八日去泰平寺而^(時)場京町過此地、于時新納武藏守忠元為謝送別之札出謁于路傍、秀吉公賜道腹一領又親授修羅扇子一柄、

伊佐郡

佐志 山崎・大村・蘭牟田 此七ヶ所者祁答院

一惟新公御姫御下様御拝領地也、

一松尾山淨菩提院興全寺 真言宗上古、永仁五年丁酉二月十八日草創、

施主渋谷平二郎行重為亡父又二郎重松法名行蓮菩提所、開山越前房法橋琳春、初号松尾寺、

一阿字大明神 社司丸目伊与 祭神不詳 例祭九月九日、弓神轡を途中ニウナカシテ舞樂之、是を芝サシノ祭と云、

一近衛院 康治之比、祁答院郡司又太郎大前道助 本在国司又時吉、祁答院領主也、自夫歷一百余年之星霜、宝治二年戊申吉岡氏・柏原氏下向ノ後此日国東

地頭職、子孫十二代永禄年中領之、此渋谷家五家ニ相分ル、^(濃守信)濃守信橋以廣入道聖恩、將軍実朝の時代

一祁答院一分の地頭斑目六郎 濃守信橋以廣入道聖恩、將軍実朝の時代建永之比、使住居于出羽国而有故下向薩州ニ候、又其子孫斑目兵衛尉泰基祁答院地頭と鎌倉御下文ニ有、子孫十二代居住祁答院子有泉、其于比当院者渋谷家と斑目家と相知行と見へたり、

一往古佐志郷ハ時吉村宮ノ城之内在名也、領主等別ニ居住之事不見旧記、嶋津下野守久元妻虚憲徒白庵主為菩提料、家跡嶋津又六久岑ニ被分レ、此地子孫相統て為采邑の地、

一嶋津又六同権七伊賀勘解由將監小平太新次郎相統而領之、伊佐郡

黒木

一嶋津彈正大弼久慶領之、

一寛永十一年戊七月廿二日より賜豐州家一所之地、代々引次而領之、^(宗廟)宗廟

一市之大王 社司 元山氏 大王権現 祭神一座太王命、

一摩尼山 延命院 吉祥寺 真大乘院末

一雲長山 大應寺 臨五山流 正興寺末

一古領主等不見旧記、文治十八年九月十五日、為渋谷家退治守護の兵馳屯、此邊放火在之、旧記ニ有、

伊佐郡 当郷ハ祁答院惣地頭渋谷領之外也、其故ハ霧田氏鼻祖薩州下向之時、^(蒙備)蒙備家の命為當領主自夫子孫代々領之、霧田

一宝治年間、渋谷大谷四郎平重茂 祁答院吉岡三郎平重直弟也、

自鎌倉下向当地守領之、次而子孫傳領之、天正之比、太守貴久公御代迄領之歟、其時分正之初城主霧田駿河守と有、子孫蒲生士矢口氏と云々、

霧田城 中山城とも云

○應永八年合戦の節、城主渋谷刑部左衛門重成為國方應永之比、渋谷刑部左衛門尉重成 号上守之難渋谷黨通志 太守氏久公、依之國

一揆の主將渋谷黨并菱刈・北原・牛屎・和泉・相良等之凶徒憤此責此城、於是氏久公為援兵御出馬有之処、凶徒等逼公之陣、合戦及難儀御開陣有之候処ニ、渋谷黨出兵遮帰陣の間、公自身下手太刀打有、公臣式部彦七、本田弥七など返シ合戦死を遂候、此間に

漸山を越て退陣あり、敵棄勝迫来るゆへ、以大返之術御勝利、凶徒の主將等大半被打取候、世俗是を公の山引合戦と唱候、其後應永八年比、凶徒等右之憤を不忘、嶋津大夫判官伊久入道久哲渋谷家一味ニ而大村・清敷・柏原・東郷・高城等を遣し再攻当城急也、元久公開此危難以大兵三千五百人為後結御出馬有之、于時應永バ

年九月五日也、日々合戦有之、其後及和睦当地を久哲に渡して城守菱刈ニ退去す、

一天正之比、左衛門督歳久御領なり、

一萩原 右合戦の時、渋谷黨嶋津判官伊久陣所也、

一神崎山在合戦、元久公本陣を爰ニ被居候、町ノ上山也、

一善福寺 町近邊寺跡有之、

右合戦之時、嶋津上総介伊久入道久哲張陣当寺、對神崎山、同十月中旬球摩の加勢の将実長と云者也、同廿五日千町田間にて合戦有之、

△一右合戦云々
一黄龍山 大願寺

祁答院記云、黄龍山大願寺者、將軍家義滿鹿園院殿之所願也、謂

之ヲ郡山本願寺、貞治年中郡山之百姓法名禪仲禪定門寺地示論叱

之宰使渋谷羽州公重て仍挿大願之意趣草創梵宇称黄龍山大願寺、開

山一関國師起宗和尚、兩祖ノ開業而寺院十有餘宇、以上義熊書入

ル、

宗廟祭主毫斗七升五合

一諏訪上下大明神 社寺岩崎氏 柏原村 藥師堂竹林寺格護

高拾六石 鶴田郷士へ附高

一紫尾三所權現 別当祁答院

神鉢大鏡三面 承元年中寄進、傳称源実朝公御寄進、其外小鏡數

多有中に、承久二年功德主源兼元と有、

高四石余

一五幣山伍明院神崎寺 真一乘院末

高壹石余

一長松山竹林寺 臨 大慈寺末

應永之比、鶴田氏草創、

前二入ルヘシ
△二右合戦之節、

守久同忠朝兵二百計熊越之陣下ニ陣す、相良讃岐守自頼從兵貳百計鶴巢江成其ニ陣す、伊久陣善福寺与援兵、肥後国

求摩領主相良家然而実長と云ハ同十月中旬從賊徒三百騎自紫尾山

簾し迫之古城に支タリ、同十月廿五日千丁田間ニ而合戦、其後和

平有而城守開当城、太守元久公共ニ鶴田某退去菱刈、

一柏原村 上古祁答院、吉岡三郎重直早川太郎知行之、柏原氏卜号、

一合志村 天正之比、歳久公御領分也、

一秀吉公西征和睦之後、義久公鶴田城ニ暫御滞留之砌、義弘公も飯

野より御着城、当城ニ而御對顔あり、夫ヨリ鹿兒島へ歸殿と云々、

猶可相糺、
高廿二石云々

一紫尾山 祁答院神興寺 天台宗南泉院末 権現宮別当

繼鉢天皇之御宇、開山空覺上人、開基年月不詳、右正徳四年太守

吉貴公再興、

一上宮權現 祁答院種子田村ニ有、祭神熊野三座 上宮・中宮・下

宮合而三所、当社下宮なり、

一萩原 一熊越後 一鶴田古城 一鶴巢 一神崎山

一善福寺 一千町田間

右諸所ハ諸場并戰場也、

一柏原村 上古寛元宝治の比、將軍家之公領也、祁答院家鼻祖、

吉岡氏下向有而為地頭と云々、鎌倉御下文ニ柏原地頭代ニ有、

又元應二年十月廿二日鎌倉執權北条相模守高時之書狀ニも柏原

地頭代と有、祁答院家三代渋谷又四郎重松と云歟、

一山一ツ上宮嶽

一鶴田城 秀吉公当国御下向御和睦相濟、龍伯公当城に暫く御滞留、

義弘公飯野より御参ニ而御對顔被遊、夫より鹿兒島へ御帰城なり、
一紫尾権現 在柏原村、祭神熊野社ニ同、親盈云、紫尾三社占云紫
美三社、

類聚国史日、貞觀八年四月七日、正六位上紫尾神從五位下、同十
六年三月八日壬寅正六位上紫尾神從五位下、

一天正十五年五月、秀吉谷山崎郷江御着ニ付、本道を除キ九屋与云
所の難所を辱御通候時、祁答院之士卒弓鉄砲を射掛奉る、然とも
無事故、竊田村江御一宿ニ而候故、此所ニ而御兩殿様御對顔被遊、
歳久公ハ依病氣、家臣本田掃部助を以被窺安否候、左候而翌朝免
駕神子村通行と云々、

伊佐郡

宮之城

一古昔祁答院氏領之、永禄八年之比より入来院彈正少弼重豐領之、

雖然太守免兵掠取、

一文禄四年より北郷氏領之、其後金吾歳久領之、至嫡孫常久有故而

去宮之城、

一慶長五年十二月、忠長移当地為采邑之地去東郷領地、

一慶長十九年より嶋津下野領之、為所之地、(大カ)

宗廟

一松尾大明神 社司種子田參河、祭神一座天山咋神

一全興山

一湯廣山 曇秀寺 禪福昌寺末

一時吉村 鎌田三郎左衛門春政へ給当地領之、應永年間也、

一旧記云、永禄八年乙丑正月十五日、祁答院良主女中より被殺害玉

ふに依て、入来院又五郎重豐なり、兩家を相続す、二月廿八日と
有、

一曇秀寺者、嶋津左兵衛尉尚久菩提所也、尚久鹿籠薩州河邑為地頭
之時、一字建立鹿籠之地称極樂寺、尚久没後安置牌、此寺天正十
七年圖書頭忠長申良より移東郷薩州時、改極樂寺号湯廣寺曇秀寺、
慶長五年午賜宮之城時、此寺曳大願寺、旧記後又移虎井、龍峯寺
の旧記至今香烟不絶也、

一時吉墨在時吉村、上西岡と云、上古唱上城、此墨者祁答院郡司大前氏代々守
之、元龜之比、時吉孫太郎入道支族并洪谷河内守延重等守之、

一宮之城 上古ハ虎井城中古 從上古時吉氏守之、康治之比、時吉
氏大前道筋已来守之祁答院記云、時吉城を上城、

○建久之比、祁答院又太郎大前道秀守之、從宝治二年比、祁答院吉

岡三郎重直実重 同洪谷平太重尚・同又次郎重松・同平次郎行重、

同弟次郎左衛門重実・同出羽守公重・同出羽守重義・同遠江守久

重・同播摩守德重・同遠江守重廣・同直市重貴・同伊勢守重武・

同河内守良重迄領之、而至永禄九年断絶、其後島津凶書頭忠長已来代々住之、

其後北郷左衛門時久入道一雲、其後島津凶書頭忠長已来代々住之、

一堺田墨 在求名村 古昔堺田氏守之、

一求摩陣 右同村、永禄十二年五月廿五日、自守護方責長野往古祁

内、今隅州城、此時相良家住求摩主の兵卒陣營場也、

一古墨 在平河村唱為明城内詳 一新城 上田村由緒不詳、

一松尾墨 上古斧刈家・洪谷家等之持城也、在虎井村、弘治三年四

月廿日、蒲生隅州の城主蒲生越前守義清蒲生落去候後、奥洪谷河内

守良重退去祁答院、良重扶助而給居此墨、

一遠見墨 傳云、永禄之比、從守護方為洪谷退治責入祁答院之時、

軍衆籠此墨祁答院之凶徒ヲ防と云々、

一長岡墨 上古大前氏格護之城之中、洪谷蘭甫与云人今居住候云々、

不知様、田部村政轉云蘭甫、俗名渋谷家系ニ不見得、良重之親父重武を云歟、重武父子居住当地歟云々、

一 湯田壘 長岡壘取添也、由緒不詳、

一 湯田壘 上古大前氏格護城ニ而富元氏当院郡、斧刈氏守之、永禄之比、富元信濃守・大前道家・同駿河守道能等守之、

一 古壘 在船木村 城主由緒不詳、田部政轉云、渋谷良重家臣船木播摩守・同又八郎令居住歟、

一 ツ木里 在虎井村

文明十六年 為渋谷退治守護兵乱入祁答院、於此地挑戰の事、旧記にあり、

伊佐郡

山崎 天正ノ比、野村兵部少輔地頭兵道使者及平佐地頭、

崇廟祭主三斗五升 (三國名、敵島氏)
一飯富大明神 社司徳田和泉 祭神不詳

一 淨光山 養案寺 禅宮之城大圓寺末

一 久留木村 久留木一族氏代々知行之、永禄之比、久留木伊与守、

天正之比、久留木山城守守重金ニ至リ家断絶、

一 糟毛田 在久留、文禄之旧記祁答院大村之郷糟毛田郷ハ常陸国佐竹

源八郎とのより東内東郷家を差て云歟 殿ニ壳渡んと有之、不知為

何子細、此時久留木村ハ大村郷の内と相見得候、

一 簾之尾 太閤秀吉公上洛之節、被立旗たる所也、

一 鉾之尾 右同人平佐より岡窪行軍有之候、

一陣之尾 右同人陣営場所ニ而其跡存せり、

右三ヶ所何方郷ノ儀不詳、追而可考、

一 久富木壘 在久富木村 渋谷彦三郎重氏六代渋谷出羽守公重弟也 己来代々守

之、永禄之比、久富木兵庫頭重金良重、天正之比、山城守某守之、

一 山崎壘 上古在国司入、大前氏支配之儀ニ而、應永之比山崎右馬權頭重直重茂三男守之、文明十六年九月八日、守護之兵為渋谷退治発向此所、

一 古壘 在白川村、白川村ハ往古東郷薩摩之地、中古為祁答院家領也、古領主白男川氏ハ渋谷又二郎武重入道覚禅東郷末子ニ而、初而領当村ノ比弘正應矣、

一 舊記云

薩摩国祁答院大村郷之内加志^⑤た并宗三郎入道カ親跡^{号城田}同事

右所者、依為亡父重春所領女子常陸讓得候間、子息佐竹源八殿

傳領候故、平内殿子息幸満有買得由候事、不可有子細候、仍当郷内事、為後日證文状如件、

康治四年二月十二日

平重利在判

此同文沙弥道意同年同月ニ同文有候間、常陸国佐竹源八殿ニ而ハ無之筈候、渋谷五家ノ内の人と相考申事、

一 亡父重春と有之ハ、道鑑公御代長野の城ニ而敵いたし候、渋谷弥

四郎重春カ代ニ相当リ候事、

伊佐郡

大村

嶋津彈正久慶領之、後東郷御縁易、大村外城ニ立、康永の比大村太郎領之、應永之比渋谷又二郎諸重遠江守久己来子孫領之、

一 ながへの瀧 落所三十三尋 深サ右同

一 大村城 康安年間、大村太郎渋谷一族守之、應永之比より渋谷又

二郎諸重守之、氏久公御代大村駿河守重知諸重依国一揆之張本、

御追討及落城、賜本田氏也、文明十七年九月十三日、太守公被責也、中津川大城責之時、於此所追合有之、

崇廟祭主三斗九升

一大居神大明神 祠官松永加賀 祭神不詳

高三石

一摩尼山 延命院 吉祥院 真大乘院末
高六石 (三國名、夫應寺)

一雲長山 大應寺 臨五山流 正興寺末

應永年中草創 大檀那渋谷河内守延重、大應庵雲山行慶大禪定門

位牌有、昔日有大願寺境内、近代移此地、

伊佐郡

蘭牟田

一文明之比、渋谷河内守延重二男重基領之、

一宗廟 一日吉山王社 社司 税所肥前 祭神廿一社

一竹林山 普賢院 大乘院末

一高同斷 (三國名) 華嚴寺

一弓木山 福昌寺末

一蘭牟田城 蘭牟田一族 家元祖渋谷重基 渋谷河内守 已來代々守々、

一文明十七年二月十九日、嶋津豊後守忠簾攻之、渋谷氏重基守之城陷矣、

一文明十六年二月廿日、忠昌公為退治渋谷黨、薩州匠作・村田肥前

守為大將責入于陣内、先被責当城、城主蘭牟田河内権頭重持指揮

兵卒而防戦不利、終下城矣、

出水郡 應永廿九年貴久公師軍押寄当城、守久之居城を被負候、

出水 守久力尽奔肥後、其後久豊公御手二入、

中古作和泉、今為出水

出水 野田・阿久根・高尾野・長嶋惣名号山門院、

和泉城 大手口・小松口・霧降口
西ノ口・桜門・矢倉有

薩摩守用人己來七代至忠辰在城、当地ハ薩摩守用人己來世々傳領

之、七代忠辰改易已後為公領、慶長四年朝鮮国軍功之賞候御拝領

也有而、本田六右衛門地頭被仰付候、同十二年より樺山権左衛門

久高地頭、其後山田民部少輔有栄地頭被仰付候、

忠辰改易已後、麓の邊宗對馬守領分と成、朝鮮入已後再御当家

ニ拝領、宗家へハ為返地、筑前八代と云所拝領也、

一尾崎城 知色彦三郎入道行寛楯籠之、仍文和三年六月十日、師久

公被攻之、同十一日攻落之、被籠御人数之处、牛屎左近將監高元

并肥後葦北凶徒和泉敵に加り、公の御陣ニ押寄散々合戦、師久公

も暫く御在陣被成候、

一知色城 往古知色 古和泉 氏守之、

師久公御在陣、文和四年六月凶徒寄來候、同年十一月廿二日、和

泉庄名主并牛屎左近將監高元・在国司入道道超已下凶徒卒多勢寄

來当城之間、師久公一日一夜御合戦、此時三ヶ所被疵と云々、北

郷尾張守資忠も被疵、其外手負百余人、酒匂兵衛四郎・同左衛門

四郎・愛甲弥四郎・大田五郎・阿蘇谷三郎左衛門・堀源五等打死

と云々、

一津口番所 在脇元村并米之津村 一番所 在大河内村又野間原ト肥

自他国の商船所聚、 宗廟祭主五斗式升五合、在上知城村

一御假屋 在宮之城前 一箱崎八幡宮 社司黒木安藝

一加久利山 惣持院 幸善寺 門首格京都五百仏山根來寺知積院

末寺、 (三國名) 紫

一加久利大明神 薩州之二宮也、在平松 社司 黒木土佐 座主辛

寺

右所祭五座 應神天皇・神功皇后・天照太神・姫明神・住吉三社

也、例祭二月三日・八月朔日・十一月三日、

高三十石

一宝池山 無量寿院成願寺 真大乘院末

高拾石

一達磨山 竜光寺 福昌寺末

施我鬼料として毎年物奉行所より相渡、
真米式石

一太平山 大通寺 龍光寺末 義虎位牌所

高壹石四斗余

一亀翁山

(三國名)行法山

一薩摩迫門

當時唱黒之戸、出水郡出水西目村同郡脇崎村山門野浦

之間五町余塩入之渡也、

ヲサタノヲ、キミ

天武之末 長皇子孫栗栖之王長田王

萬三

隼人のさつまのせとを雲るなす遠くし我ハけふみつるかも

大木

薩摩瀉迫門のはやみの塩あたゝ漕通よいかりをろさて 公

隼人のせとの岩ほもあゆはしる吉野の瀧に猶しかすけり、

隼人の薩摩の薩摩迫門

萬葉集管見

音隼人の神有而磐を蹴破り

て、此国に出たつけるよりかく云ふと云々、其通りたる跡迫門となれりと有、

一尾崎城傳

一文和三年甲午六月十日、薩州太守師久公率軍押寄出水、知色彦太郎入道行寛己下凶徒等所楯籠之尾崎城、同月十二日合戦、終拔当

城、凶徒數輩屠殺也、

一地頭山田民部少輔有栄様子 寛永六年己巳閏二月廿六日轉補福山

為地頭移住于爰、于時新恩地八百石を賜て守封境、

一庄村 但明曆三丁西迄居地頭、

一永祿之比、地頭楠田五郎左衛門 義虎家臣也、

一瀬崎野野牧 太守貞久公御代、被立于此地と云々、

一米之津村 天正八年辰六月上旬、相良氏為阿蘇征伐、使佐多常陸

介將士卒及川上參河守・上原長門守・宮原左近將監等往肥州、時

ニ此地より繫艦趣彼国、

一切通、此所者天正九年の比、切通左馬允領之歟、

一薩摩国和泉新庄 郡司職今ハ相傳系図、

兼保・和泉太夫保忠・藤内保久・右兵衛尉保道・藤内左衛門尉保

連圖書允法・保有法名・論人相左衛門次郎

一箱崎八幡宮 例祭九月廿五日

往古忠久公当国御下向の時、筑前国の於海上上述難風、箱崎宮有誓

願、則海上穩ニ、依之出水ニ造立、宮祭、

一加志久利山惣持院幸善寺 中興開山僧正快存朝智積院・二世看敵末住持

養兒島安、享保六年御再興、幸善寺ハ隅州栗野郷ニ有之候、廃寺

ニ而元來鹿兒島大乘院末寺ニ而候処、享保六年丑從吉貴公御再興

ニ而智積院直末ニ被成候、

一亀翁山 勅願所 一心院專修寺 時衆宗相州藤沢山末、永正七年庚午

創立、開山知連上人遊行廿一世、正親町院勅願所、

一達磨山龍光寺 曹洞宗福昌寺末、開山在天和尚、開基年月不詳、施

主薩州家薩摩守国久、

一加志久利神社者、吉貴公御代より御家督涯ニ当番頭御代参ニ而、

百銀御進納也、

一浦五 脇元・蕨嶋・福之江・名護・米ノ津

一山一矢筈竹

一山門院者、上古權別当種国平姓千葉介常胤一流出羽守種方初而被

補山門院郡司職、是山門家鼻祖也、三代太郎秀忠候関東右大將家

蒙恩遇厚矣、其子二人別樹家、又先父卒故ニ郡司職を嫡女ニ讓ル

鮫島弥二郎、依而其後秀忠より讓郡司職を鮫島弥二郎景家、其後

又和泉肝付族家領之、文治年中忠久公御下向ありて三州一圓為御領

分、雖然國中未服、化所々凶徒、直立黨結類者多し、当地も又為
化之有事然共、終二一統之後、諸所地頭領主ヲ被居令全治國業而、
此地を賜薩摩守用久ノ祖為采邑之地、至文祿年中數代領之、薩摩
家有故改易之後、為公領、其後慶長年中再當家之邑ニ候也、

一和泉元祖伴姓肝和泉兵衛尉行俊註肝付右京祐兼貞五男、其苗裔和
泉小太夫兼保、其子井口諸太郎兵衛尉保久、同太郎兵衛尉保忠、

同諸太郎政保已來代々知行和泉、兼保事蒙右大將家恩免被補和泉
新庄郡司職、其後嶋津三郎兵衛忠氏四世忠宗公御相統於古和泉之

跡領之、其子右衛門兵衛尉忠直・同能登守氏儀、同式部太輔久親、
同又四郎直久、同弟又五郎忠次兄弟ともニ應永廿四年九月十一日、

於薩州河邊戰死、依テ和泉家断絶す、其後薩摩守用久領、
一井口壘 往古井口古和泉氏守之、

一切通 中之塩屋 狩祭 芭蕉 青椎 高鼻 黒濱 蝙蝠岩 上場
此諸所邊路番有、

一寺沢家御領之時分、高昌新藏支配にて三四年之間有之、高麗入為
忠分再御拝領也、

一出水郷士人数之次第
平山城 麓構之城 井之上城 朝熊城 長谷場内城
和泉殿 相殿 井口殿 朝熊殿 平城殿

下知敷城 安原城
知敷殿 安原殿
出水郡

阿久根 浦々町有折口濱
一天正の比、嶋津薩摩守義虎領之、至其子忠辰、

一應永十八年辛卯九月十五日、從島津左兵衛尉久世主入来院彈正少

弼重長七賜之、

一莫根太郎成兼寛元四年十二月四日、自鎌倉殿賜薩州莫禰院郷太郎
其子孫新太郎重成莫禰郡司と有、又成兼より五代左兵衛尉成友・

次男次郎太郎成行莫称遠矢之領主と有、此人自鎌倉寄田之諏訪奉
守下向スト有、成友より三代孫太郎成重莫称院郡司とあり、

一開聞正一位 祭米三斗五升 社司鯨島右近 祭神一座天智天皇
一高峯山 般若寺 文珠院 真大乘院末
一高峯山 般若寺 文珠院 真大乘院末

一瑞香山 蓮花寺 臨五山派 廣濟寺末
一寶樹山 極樂院 阿弥陀寺 時衆宗 相州藤沢山末

一蓮花寺 臨濟宗 五山派 伊集院廣濟寺末寺 應永五年戊寅草創、
開山高標和尚 中興南溪和尚 賜將軍義輝公之公帖、從是相統而

賜將軍家之公文、雖然、致断絶候、準佳例、其以後賜御當家之公
文住職相勤申候、

出水郡
長島 惣廻り十七里貳拾二町、明曆四・二月二日以城ニ立、

一古來より属出水 薩州家代々義虎 忠辰迄領之、
一明曆三年西九月十二日より至寛文二才十二月、移地頭仁礼左近景

頼、
宗廟祭米五斗五升 山門野村 社司増田主膳 ○道鑑公信州より始而此
一諏訪大明神 地ニ御勸請有と云々、

高五石鷹巢村 一飲光山 軍持院 常念寺 真大乘院末
一寛文八年開基・開山快意法印 大乗院十五世勸請開山、中興開山

光照法印
一神伯山 長光寺 禅出水龍光寺末 城河内村

開山智惣和尚 龍光寺三代

一上古和泉家^{肝付}支流代々領之、文治二年、忠久公御下向之後平秀忠領

之、曆應・建武之比、和泉下野守忠氏已來子孫領之、應永之比、

島津播磨守守久、夫より永享・嘉吉の比より薩州家代々領地、其

後天草越前守押領、于時島津常陸守攻取之為領知、文祿元年より

至慶長二年寺領と成、同三年より以來為公領、

一浦三ツ ^(進力)塩追浦 和仁之浦 御所之浦

一産物惣 海^(魚)をさ 海苔 鮑 蠣ふのり 寒海苔

一伊唐嶋^{属嶋}去長嶋 一獅子嶋 去長野 此嶋の内ニ有、同所之浦

出水郡

野田

一往古山門出水薩州家代々領之、忠辰代迄領之、

一古昔出水之内ニ而再地頭、寛永五年戊辰外城ニ被召立候、同拾二

年迄地頭浦地備中守

一木牟禮城 当分出水^(野田カ)村之内

文治二年丙午八月二日、忠久公初而当国江御下向被遊御在城と云

々、從是相統て五代様迄被遊御在城候、一説ニ建久七年丙辰八月

一日御下向と云々、文和三年凶徒寄來候、同四年四月廿六日の夜

丑刻、牛屎左近將監道義・肥後葦北庄宮原某・和泉庄下司諸太郎

兵衛尉政保已下之凶徒忍入当城、散々相戰忍式人打留^{孫二郎}四郎三郎

自余者追返と云々、郎等市後崎次郎秀幸被疵と云々、

一釘磨原 本田久兼所領也、文和二年二月合戦有之、

一熊野權現^{宗祭主三年五升}社司木上孫右衛門、下名村 享祿三年造立、

一鎮国山 感應寺 臨京都東福寺末、薩州五山派門首 開基不詳、

中興開山雲山和尚、本田信濃守貞親草創と旧記ニ有、忠久公より

御代々御石塔有、

一龜翁山 西性院 山田寺^{天台宗穴太派、比叡山末寺}

康保年中草創、開山性空上人、忠久公御入国の時、此寺を御祈願

所と被成、住職世々賜叡山之免狀、僧官昇進有之候、

但中興開山膏契法印阿蘇氏之人也、

出水郡

一高尾野 上古山門家井和泉・薩州家等代領之、

一崇紫尾權現^{祭主三十五升}社司白川若狹 祭神并造立年月日不詳、

一紫尾山 福性院 真大末

一齡瑞山^{高拾貳石余}洞龜寺^{禪出水龍}光寺末 薩摩守重久牌像有、

高城郡

一高城 西方村・湯田村元龜元年春賜義虎

一^{号手頼城}本城 麓町北方三町余有、

高城氏兄弟不和ニ成及合戦、舍弟高城三郎守護方ニ乞援兵伊集院、

市來・高江・宮里・羽嶋方ヲ始御内ニハ長州山田方ヲ先として本

城ニ押寄、兄之小河方一支も無之、東郷・国分執印を頼水引を指

て退去ス、祁答院・入來院ハ此時守護方ニ成然者、兩所之大勢を

卒シテ、高城某を逃而進レ、

一遠見番所 在西方村

一湯田城 宮方坊之上通路筋より右三十間余ニ有、

○文明十七年三月十八日、薩州家より攻取と云々、

○永祿十二年己巳冬、依渋谷加賀守重嗣之謀而、東郷大和守重尚当

城を義久公ニ獻し降参候、

一妙見大菩薩^{宗祭主五斗式升五合}社司有馬氏

一^{高壹石}当花山^{三國名桃花山}多樂院 淨興寺 真大乘院末

一群玉山 西來院 信興寺 禪帖佐總禪寺末

群君山 貴久公 義弘公御牌立

一西方村 應永十年癸未十二月七日、從嶋津播摩守守久主入来院重頼二賜之、永祿十二年己巳之冬、東郷氏より太守公ホ献す、

一東郷氏領之、永祿十二年己巳之冬、当郷を義久公ニ献降参ス、

一高城隱岐守重信攻取此地、從弟高城備前守重隆居之、其子備前守重誠代没落当地、而備頼外伯父入来院彈正少弼重聰、

一^①之浦村 忠久公御代建久之比、牟木太郎領之歟、

一宝治二年比、兄弟五人下向、号落合六兵衛重貞^{渋谷太郎}領之、元弘・建武之比、高城河内守重棟被補九州探題武者鳴世子孫代々領之、

高城郡

水引 京泊浦 船間嶋浦 川一千臺川

一東郷氏押領之地也、

一永祿十二年己巳之冬、義久公ニ此地を献す、但渋谷加賀守重嗣誘

東郷大和守重尚入俊亮^{道也}而降参、奉謝多年罪矣、

一京泊村 元龜三年春より帰義虎、

一津口番所 在京泊村 自他国之商船所聚也、

一遠見番所 在京泊村 砂嶽

一水引城 通路より高城之方左三十間余号屏風城、○文明十七年二月一日、東郷氏・高城氏合鉢ニ而攻取之城主ハ守護方也、同三月

廿日、三郎太郎忠興薩州家押寄、後詰之敵兵風口小松尾ニ着陳す、

然其忠興不厭し而、終ニ城を拔也、

神領高八百六拾七石内百石御供田内六百拾七石社家給地内百五拾石

修甫田
一八幡新田宮 社幣 執印丹下 座主觀樹院

古日記云、元慶四年庚子薩州新田八幡建立、陽成天皇之御宇也、

高武藏守師直、曆應四年十一月十三日之文書に薩摩一宮と有、○

同年五月廿二日、道鑑公之御請文ニも一宮と有之候、○正應三年

庚辰薩摩新田宮舞樂有、

祭主^{七升五合}
一山王宮 祭神廿一座 社司寺田諸右衛門

神領高九石壹斗 泰平寺内シテ則直格護也、

一天滿天神宮 一葉師如來

高式拾壹石
一醫王山 西知院 泰平寺 大乘院末

天正十五年、秀吉公西座之時分、住持有印法師也、

高式石
一靈光山 鷲岳寺 禪高城信興寺末

一神龜山 觀樹院 大乘院末 新田宮座主

神領高之内

高式拾壹石
一蓮臺院 學頭坊 大乗院末新田宮坊中高七石余 右同 三國名・滿

高拾貳石
一福寿院 檢校坊 右同 一遍明院 御政所坊 右同 三國名・善聚院

高拾貳石
一宝寿院 正宮寺坊 右同 一寶王院 權宮司坊 右同 三國名・治

高拾壹石
一宝藏院 下宮司坊 右同 一連^②院 玉泉院^{坊也} 右同 三國名・財

高拾壹石
一福昌院 和光坊 右同 一理趣院 在力坊 右同 三國名・文珠

高拾壹石
一^③院 圓^④坊 右同 一神宮寺 五代院 三國名・林

高拾壹石
一^⑤院 三國名・林

一佐月野山 威徳院 照常寺 大乘院末

一^⑥山 威徳院 国分寺

一網津村 天正之比、嶋津義虎領之、

一草道村 道鑑公御代 草道太郎左衛門正平、宮里氏、霸王丸公名

主と有、紀氏也、

一新田宮 所祭三座 天照皇太神 天津彦々火瓊々杵尊、薩摩国新田

宮人皇四十五代 聖武天皇神龜二年建立となり、或云、元慶年中

鎮座云々、龜山之西北面之山腰ニ有、陵是曰可愛陵、神代之所築

也、皇帝記曰、人皇九十一代伏見院正應三年庚寅薩州八幡新田於高麗橋有舞樂、棧敷五十三軒、見物人三万と云、宝塔供養之時也、

当社者、御代々御宗敬之神ニ而吉貴公己来御家督之節、当番頭

御代参ニ而白銀進納有之候、

(護腕九)

一 国山 国分寺 大乘院末 開山不詳、養老元年創立、依聖武天皇之勅願、日本国一國一ヶ寺御建立之中ニ而候、且又当寺格護之天満天神宮ハ往古天曆帝位勅、應和年中御建立薩州之一寺、人皇十四代、元正天皇之養老五年依勅命諸國一統建作丈六釈迦像置候、

村上帝也

行基造之云々、此地ニ天満大自在天神の宮御鎮座、筑前国宰府之天神之別宮也、應和年中之爾跡ニ而巖重無双之御廟なりしと也、天下泰平之御祈禱異賊降伏也、御祈禱又者天神宮国分寺造管修覆ニ付而、宣旨院宣自鎌倉之御廟書又ハ御下文、国司之下知書注有、数通之文書及紛失其留有国分家、依之無双之靈廟御崇敬異り他社而、御祭礼之供具等を薩州之七ヶ郷より為出也、然処、天正十五年太閤秀吉公当国の被征入候時ニ川内表騒動す、故ニ国分寺留主城国分左京奉負神跡鹿兒島へ来ル、其尊像于今左京子孫之家ニ安置ス、畫像ニ而座す、

一 醫王山 正知院 泰平寺 大乘院末

開山并開基年月不詳、本尊藥師如来和銅元年元明帝自醫王善逝之像御彫刻勅ヲ下而御安置、

且又足利鹿苑院義満公真筆之醫王山殿之額有、依勅願一國一基之塔婆と立、佛舍利二粒ヲ安置す、曆應二年八月十八日、足利左兵衛督源直義在判文書あり、天正十五年四月廿五日、秀吉公川内ニ

着船、当寺を本陣とす、五月八日、龍伯公於当寺被謁秀吉公、佐々陸奥守・堀左衛門佐等奏之、同十八日当寺御発駕有て、入平佐

城自夫如祁答院趣玉ふ、元明帝御手自藥師の像を彫刻し給ひ、和

銅元年ここに御造管あり、故に洛陽因幡堂叡山の根本中堂と三藥

師と称するとかや以上對内靈、

一 林香寺 院号山号

追可考

秩父家傳

右者、伊地知彈正忠季隨於筑前金隈、氏久公□ノ御名代トシテ戰死ス、其甲冑京泊ニ流来、此地ニ相納メ建寺号林香寺、船岡嶋の地ニあり、

既刊史料名

集	史料名	集	史料名
1	薩藩政要録	16	鹿兒島縣地誌（上）
2	丁丑日誌（下）	17	〃（下）
2	〃（上）	18	薩摩舊士文章
3	薩摩国新田神社文書	19	薩藩先公貴翰（乾）
4	一向宗禁制関係史料	20	〃（坤）
5	薩摩国山田文書	21	小松帶刀傳・履歴・記事
6	諸家大概別本諸家大譜職掌紀原御家譜	22	小松帶刀日記
7	薩摩国阿多郡史料	23	新修舊鹿兒島藩領国・郡・郷・村・浦・町附（上）
8	御登御道中日帳御下向列	24	〃（下）
9	明治元年戊辰戦没関係史料	25	「三州御治世要覧」（三五～三八）
10	伊能忠敬の鹿兒島測量関係史料並に解説	26	桂久武日記
11	管窺愚考・雲遊雜記傳	27	明赫記
12	川上忠塞一流家譜	28	要用集（上）
13	本藩人物誌	29	〃（下）
14	薩陽過去帳	30	桂久武書翰
15	備久公御養子御願一件抄	31	本藩地理拾遺集（薩摩国上）

鹿兒島県史料刊行委員会委員

五十音順

川越政則	元南日本新聞社社長
芳即正	鹿兒島純心短大教授
桐野利彦	元鹿兒島女子短大教授
桑波田興	鹿兒島大学教授
五味克夫	鹿兒島女子大学教授
小西四郎	元東京大学教授
犀川碇吉	元甲南高等学校長
竹内理三	元早稲田大学教授
原口泉	鹿兒島大学助教授
福満武雄	鹿兒島新報社取締役
宮下満郎	甲南高校教諭
桃園恵真	鹿兒島大学名誉教授
山田尚二	西郷南洲顕彰館館長

第三十一集

本藩地理拾遺集 上

(薩摩国)

平成三年十月

発刊

鹿児島市城山町五一
鹿児島県史料刊行委員会

印刷

鹿児島市清水町十二番二十七号
(有)ニッセイ印刷

電話 四七一九三五〇

